



International Year of  
**CHEMISTRY**  
2011



三菱レイヨン  
MITSUBISHI RAYON CO., LTD.

三菱レイヨングループ

# CSR報告書 2011

MITSUBISHI RAYON GROUP CSR REPORT 2011

# 4事業が担う三菱レイヨン

三菱レイヨングループは、MMA(メタクリル酸メチル)系事業体を主要事業とし、MMAモノマーで世界シェアNo.1の実績を持ちます。また、高分子化学メーカーとしてAN(アクリロニトリル)系事業も展開しています。

当社グループは、化成系・樹脂事業、炭素繊維・複合材料事業、アクア事業、繊維事業の4事業で持続的成長のための戦略を推進しています。そして、合成繊維や合成樹脂で培った当社の高分子技術を応用し、中空糸膜、炭素繊維などの新たな



化成系・  
樹脂事業

日本国内、韓国、中国、タイ、欧米などの各プラントをフル稼働し、ワールドワイドかつ強固なMMAチェーンを確立し、MMAモノマー世界シェアを38%から45%へ伸ばします。

MMAの主要3製法全てを保有する世界唯一かつ最大の企業グループであり、モノマーからポリマーまで一貫した事業群(MMAチェーン)をワールドワイドに展開しています。また、アクリル繊維やABS樹脂の原料であるAN及び誘導品なども展開しています。



炭素繊維・  
複合材料事業

素原料であるアクリロニトリル(AN)からプレカーサー、炭素繊維、それを基材とした中間材料、成型加工品に至る垂直チェーンを有する強みを活かし、アメリカ、欧州、アジアの三極のマーケットで事業の水平展開を行っています。

需要の急拡大が見込まれる産業資材、自動車、航空機、風力発電などの産業用途で軽量化、低燃費化に貢献する製品の開発、製造、供給に取り組んでいます。2011年6月には、これらの用途で使用される大型成型物に適した〈パイロフィルP330シリーズ〉(高性能ラージトウ)を投入し、一層の拡販を図っています。



## 目次

社長メッセージ.....	3	CSR マネジメント.....	15
特集：絶え間ない技術革新が人々の豊かな未来をつくる ....	9	行動憲章	
化成系・樹脂事業 .....	11	お客さまに対するベストクオリティ .....	17
炭素繊維・複合材料事業.....	12	社会・環境に対するベストクオリティ.....	21
アクア事業 .....	13	自らのベストクオリティ.....	29
繊維事業.....	14	三菱レイヨングループの概要 .....	33
		三菱ケミカルホールディングス グループ理念.....	34

# グループの永続戦略

事業をグローバルに展開しています。

また、三菱ケミカルホールディングスグループのメンバーとして、同社グループとの事業、研究開発など各分野における統合効果の早期発現を目指しています。



## アクア事業

水ビジネスの有望市場である中国を中心に、MBR\*技術を機軸とした膜製品から装置販売、排水処理場の運営・管理 (Operation & Maintenance) まで幅広く事業を展開します。

用水処理から排水処理まで、世界トップレベルの水環境のトータル・ソリューションの提供を目指しています。当社の技術力を結集したMBRによる再生水事業や、中空糸膜を使用した浄水器《クリンスイ》を主力事業とし、積極的な海外展開を図っています。

※ MBR: Membrane Bio-Reactor (膜分離活性汚泥法)  
活性汚泥 (微生物) による排水浄化と、中空糸膜による固液分離 (ろ過) を組み合わせた処理方式です。従来の活性汚泥法と比較し、省スペースで、かつ高度な処理水質を可能とするシステムです。



## 繊維事業

機能性アクリルとアセテートを核に、独自の商品開発によって生まれる機能性商品を欧州・中東・インド・中国などの新市場へ投入します。

機能性アクリルとアセテートを核とした世界でもユニークな化学繊維メーカーとして、独自のポリマー設計・紡糸技術を活かした素材開発に取り組んでいます。その用途は、衣料から産業資材まで多岐にわたり、また、環境負荷が少ないエコ素材繊維も開発。時代のニーズに合った繊維の開発に取り組んでいます。

### 編集方針

- 対象期間 2010年度 (原則として2010年4月1日から2011年3月末まで)
- 対象範囲 三菱レイヨングループ
- 発行時期 冊子版発行: 2011年11月  
ウェブサイト掲載予定: 日本語版 2011年11月  
英語・中国語版 2011年12月



CSR経営 展開項目

- 1 新中期経営計画  
「New Design APTSIS 15」
- 2 積極的な事業拡大による  
「人を活かす」経営
- 3 MCHCグループシナジーを発揮し、  
KAITEKIの実現へ
- 4 ポートフォリオ・マネジメントの  
徹底
- 5 「ものづくり」力の強化、  
グローバルな経営基盤の強化

ベストクオリティの実現を目指し、  
持続可能な豊かな未来社会の実現に  
貢献します

2011年10月

代表取締役  
取締役社長

鎌原 正直

はじめに、2011年3月に発生した東日本大震災により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。三菱レイヨングループにおいても複数の製造拠点が被害を受けましたが、関係される皆さまのご支援と復旧に向けた従業員の努力により、早期に生産活動を再開することができました。三菱レイヨングループでは、持株会社である三菱ケミカルホールディングス（以下MCHC）の義援金拠出に協力するとともに、当社グループとしての義援金拠出、グループ社員からの寄付、MCHCとして取り組んでいる被災地での従業員ボランティア活動に対する支援など、被災地の復旧の一助となるべく諸対応を実施してまいりました。

未曾有の大震災により被災された企業や工場の機能がストップしたことは、日本経済のみならず世界経済へ大きな影響を与えました。当社グループは、世界トップシェアを持つMMA系事業や、環境関連事業である炭素繊維・複合材料事業や水処理のアクア事業などで、製品の供給責任を果たすべく、危機管理体制の充実を図ってまいります。

当社グループは、1991年に制定された経営理念“Best Quality for a Better Life”「私たち三菱レイヨングループは最高の質を追求し、人々の豊かな未来に貢献します。」を全ての事業活動の基本としています。Best

Quality（ベストクオリティ＝最高の質）のクオリティは、単なる製品の品質についてだけではありません。従業員に代表される経営資源のクオリティ、当社グループとかわり合うお取引先・お客さま・地域社会の皆さまなど全てのステークホルダーに提供するクオリティ、世界の人々の環境・生活のクオリティという広い意味でのクオリティです。経営理念に基づき、あらゆる面で最高のクオリティを目指し事業活動に取り組み、持続可能な豊かな未来社会の実現に向け貢献していくことこそが、当社グループのCSRそのものであると考えています。

そして、その基本となるのが「信頼」であり、社会との「信頼」、お取引先・お客さま・地域との「信頼」、グループ企業間の「信頼」、職場間の「信頼」、個人間の「信頼」を基礎に据え、ベストクオリティの実現を目指していきます。

なお、当社は2011年2月、それまでのCSR委員会、企業倫理委員会、安全環境品質管理委員会、リスク管理委員会、情報セキュリティ委員会の5委員会制度を見直し、CSR委員会に代わりグループのCSR活動全般にかかわる意思決定機関として、社長を議長とするCSR経営会議を設置するとともに、CSR活動全般の推進組織として経営企画室にKAITEKI推進グループを新設し、CSR活動の一層の充実を図るための体制を整備いたしました。

# 1 新中期経営計画「New Design APTSIS 15」

当社グループは、MCHCグループの新中期経営計画「APTSIS 15」の策定に連動し、新中期経営計画「New Design APTSIS 15」(2011～2015年度)を策定しました。

「New Design APTSIS 15」は、2018年度の当社グループのありたい姿を目指した「New Design MRC」の基本的な考え方を継承しつつ、その後の経済情勢、事業環境などの変化を踏まえ策定したものです。

「New Design MRC」で掲げた「2018年近傍で売上高1兆円、営業利益1,000億円」という目標を維持し、当社のアイデンティティ、独自性をベースに、MCHCグループの協奏を追求し、シナジー効果を最大化させ、グローバル市場において、トップに位置付けられる事業群で構成された企業グループを目指します。

## New Design APTSIS 15

### <基本目標>

- グローバル市場において、トップに位置付けられる事業群で構成された企業グループを創り上げる
- 2018年近傍で売上高1兆円、営業利益1,000億円を達成する

## New Design APTSIS 15

### <基本方針>

#### ■ 「人を活かす」経営の実践

グローバル化に即した人材の育成・活用、MCHCグループとの人材交流

#### ■ KAITEKI\*の実現

MCHCグループが掲げるKAITEKIの実現に向けた活動の推進

※ KAITEKI: MCHCが提唱するコンセプト。「人間にとっての心地よさ、社会にとっての快適、地球にとっての快適をあわせ持ち、真に持続可能な状態」を意味する

#### ■ ポートフォリオ・マネジメントの徹底

MMA系事業、炭素繊維・複合材料事業、アクア事業への経営資源の集中

MCHCの創造事業と連携したUS\*材料・部材の開発強化

※ US: Unique and Specialty/独自性と優位性をあわせ持った事業

#### ■ 「ものづくり」力の強化

生産革新活動/TPM\*の推進、生産技術力の高度化

※ TPM: Total Productive Maintenance & Management/生産効率を高めるため、生産システムに潜在するあらゆるロスを無くす活動

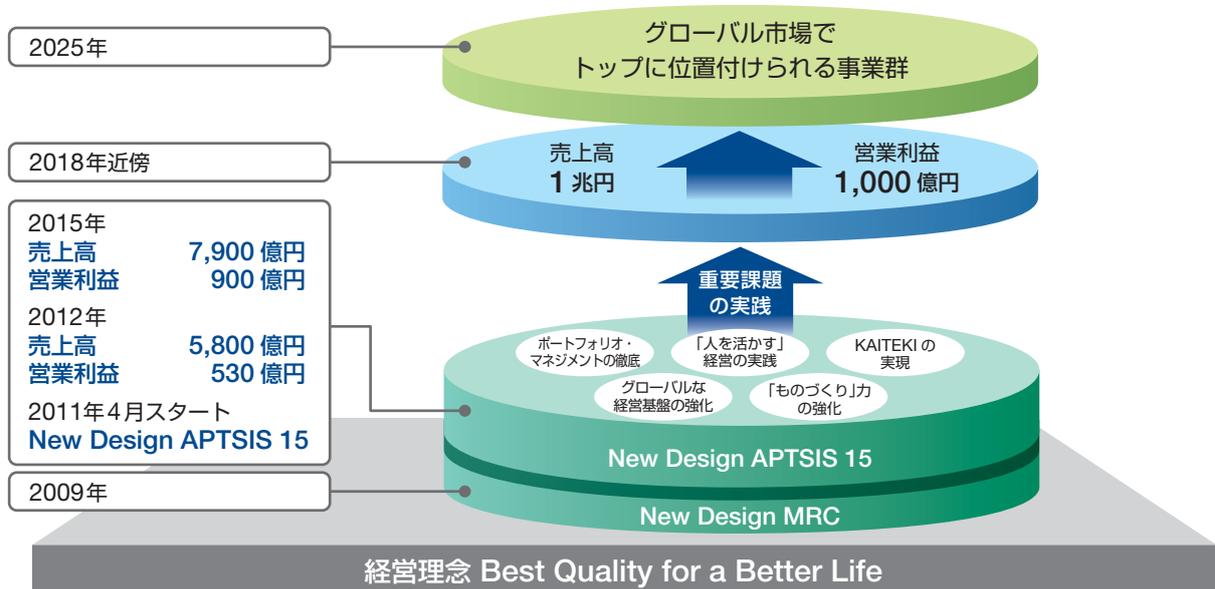
#### ■ グローバルな経営基盤の強化

MCHCグループ内の協奏を活かした、インフラ機能や研究開発力の強化、M&Aや事業提携の活用

#### ■ 数値計画

	(億円)	
	2012年	2015年
売上高	5,800	7,900
営業利益	530	900

#### ■ 三菱レイヨングループが目指す姿



## 2 積極的な事業拡大による「人を活かす」経営

企業が持続的な成長をしていくための要は「人を活かす」ことであり、当社グループの存在意義は「人を活かす」ことだと認識しています。私は「移動社長室」と称し頻りに製造や研究などの現場に出向き、直接従業員と対話することで現場の状況や従業員の考えを直に感じるとともに、経営の考えについての理解を深めてもらうよう取り組んでいます。従業員との理解を深め信頼を築き上げることが「人を活かす」経営をしていく上での基本だと考えています。

「人を活かす」経営を進めていくためには、経営基盤を強固にし、継続的に事業活動の場を広げていくことが必要です。当社グループは、2009年5月のルーサイト社

との統合により、海外売上高比率が約70%となり、多様な国籍を持つ多様な社員で構成されたグローバル企業となりました。これから求められるのは、言語や文化の違いを超え、今まで歩んできたそれぞれの歴史を尊重しながら強固な信頼関係を築き、相互の人材交流により互いを刺激し合い、仕事に対する情熱と使命感を持ち続け、自己を変革し能力を最大限に発揮できる環境づくりです。社員一人ひとりが持つさまざまな違いを受け入れ、グループの活力を最大化できるようダイバーシティの実現に向けた制度の整備を進め、グローバルなCSR活動の基盤を強化します。

## 3 MCHCグループシナジーを發揮し、KAITEKIの実現へ

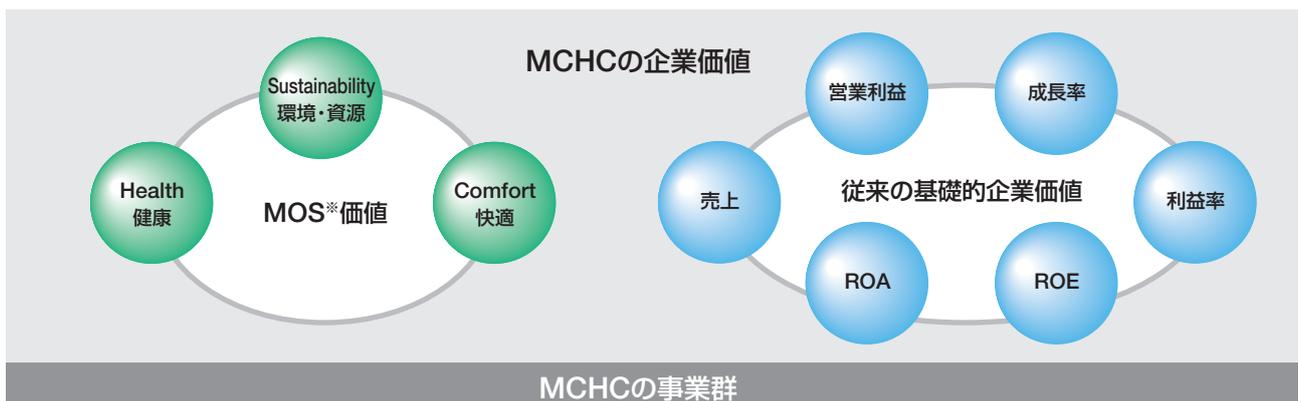
当社グループがMCHCグループのメンバーとなって、約1年半が経過しました。当社と三菱化学両グループで実施していた水処理関連事業の再編やエンジニアリング事業の統合のほか、さまざまな部署でMCHCグループの協奏効果・シナジーの実現に向けた取り組みを進めています。

MCHCグループは、2025年のありたい姿として「無限の可能性と広がりを持つ“Good Chemistry”を基盤として、KAITEKIを実現するカンパニーになる」ことを掲げています。MCHCグループが実現を目指すKAITEKIは、サステナビリティ（環境・資源）、ヘルス（健康）、コンフォート（快適）の3つの判断基準に基づき、人にとっての心地よさ、社会にとっての快適、地球にとっての快適

を持続可能な形で実現させようとするものです。

これは、当社グループの経営理念である、“Best Quality for a Better Life”「私たち三菱レイヨングループは最高の質を追求し、人々の豊かな未来に貢献します。」と表現は違いますが、目指すゴールは同じです。

当社グループは、経営理念に基づき、持続可能な状態を目指すKAITEKIという考え方のもと、MCHCグループのシナジーを追求し、事業活動のみならず、従来取り組んでいる事業競争力強化活動（JK活動）、生産革新活動、TPM活動、小集団活動などのさまざまな活動に取り組み「New Design APTSIS 15」の達成、KAITEKIの実現を目指します。



※ MOS: Management of SUSTAINABILITY

# 4 ポートフォリオ・マネジメントの徹底

当社グループは従来、選択と集中を通して事業の競争力強化を図ってきました。私たちを取り巻く経済、環境などが大きく変わろうとしている今日、ポートフォリオ・マネジメントを一層徹底し、グループの強みを活かした事業群を戦略的に強化・拡大させていくことで、持続可能な社会に貢献できる企業を目指していきます。

## MMA系事業、炭素繊維・複合材料事業、 アクア事業への経営資源の集中と強化・拡大

当社グループのコア事業であるMMA系事業、そして次なる成長を担う炭素繊維・複合材料事業とアクア事業へ経営資源の集中を図っていきます。

アクリル樹脂は、建築資材から自動車用途、IT機器向け部材など幅広い分野で使用され、今後も世界的な需要拡大が見込まれています。MMA系事業では、タイ、韓国、中国などの各国でMMAモノマーの生産能力増強を図り旺盛な需要に応えていくとともに、技術開発・用途開拓を積極的に進め、グローバルNo.1の地位を磐石なものにしていきます。

炭素繊維は、軽くて強い先端機能材料として、スポーツ・レジャー用品から各種工業機器、土木建築、航空宇宙分野まで幅広い用途で使用されています。炭素繊維・複合材料事業では、原料から中間材料・成型加工品に至る長いプロダクトチェーンを持つ強みを活かし、風力発電翼や自動車用途などの産業分野を中心に、炭素繊維の世界的な需要の高まりに応えていきます。

アクア事業は、限りある水資源の再利用を行うという点で、サステナブルな社会にとって極めて重要な事業と認識しています。今後成長が期待できるアジア、特に中



国を最重要エリアとして、海外エンジニアリング会社などとの提携を進め、水環境分野でのトータル・ソリューション型の事業展開を推進してまいります。

## KAITEKIの実現を目指した成長ドライバーにより「快適な生活」に貢献

「APTSIS 15」では、より快適な生活に貢献するコンフォート製品の開発や生産を通して、KAITEKIの実現を目指しています。当社グループは、便利・安心・やすらぎを提供する製品を成長ドライバーとして、快適な生活に貢献することでKAITEKIの実現を目指します。

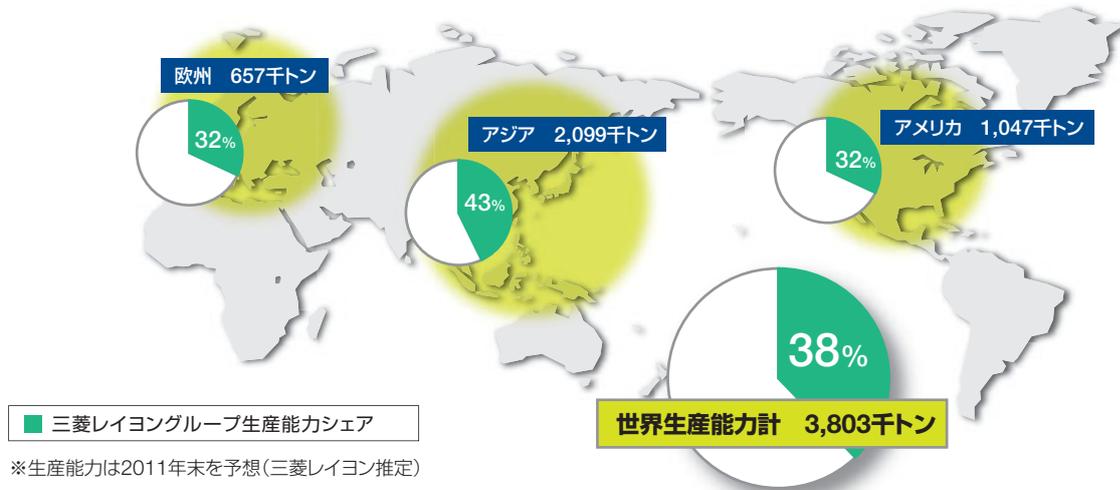
## MCHCグループと連携したUS材料・部材の開発

MCHCグループ内での技術交流、共通基盤技術の共有や活用などの協奏を通じ、当社グループの強みを活かしたUS材料・部材の開発に注力し、競争優位性を高めていきます。

### <快適な生活に貢献する代表的な製品>

- |               |                           |
|---------------|---------------------------|
| 1. 「光と色の制御」   | 導光板や携帯電話の前面板に使用されるアクリル樹脂板 |
| 2. 「軽さと強さの実現」 | 炭素繊維・複合材料                 |
| 3. 「清潔・清浄の提供」 | アクア関連製品                   |
| 4. 「保質と遮断の提供」 | コーティング材料などの機能化学品          |

## ■ MMAモノマー地域別生産能力



# 5 「ものづくり」力の強化、グローバルな経営基盤の強化

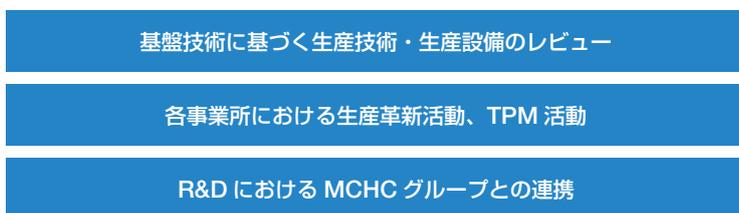
市場ニーズや原料の供給関係の変化、企業の再編、新興国の経済発展などと相まって競争力の源泉である「ものづくり」力のグローバル化が進展しています。持続的な成長を目指す製造企業にとって、製品をつくる工程の改善や生産効率の向上にとどまらず、生産にかかわる基本プロセスや基盤技術自体の見直しが重要な課題となっています。これまでの研究開発や設備設計・生産技術において築き上げてきた多くの技術を基盤とし、生産技術や生産設備のレビューを行い「ものづくり」力の強化を図っていきます。

当社の各事業所で推進している生産革新活動やTPM活動では、多様化するお客さまのニーズに応えるため、生産プロセスでのさまざまなロス無くすことなどで、低コストで高品質の製品づくりに取り組んでいます。MCHCグループとの連携も強化し、協奏による基

礎研究の深化や開発のスピードアップを図り、KAITEKIを実現する製品を提供していきます。

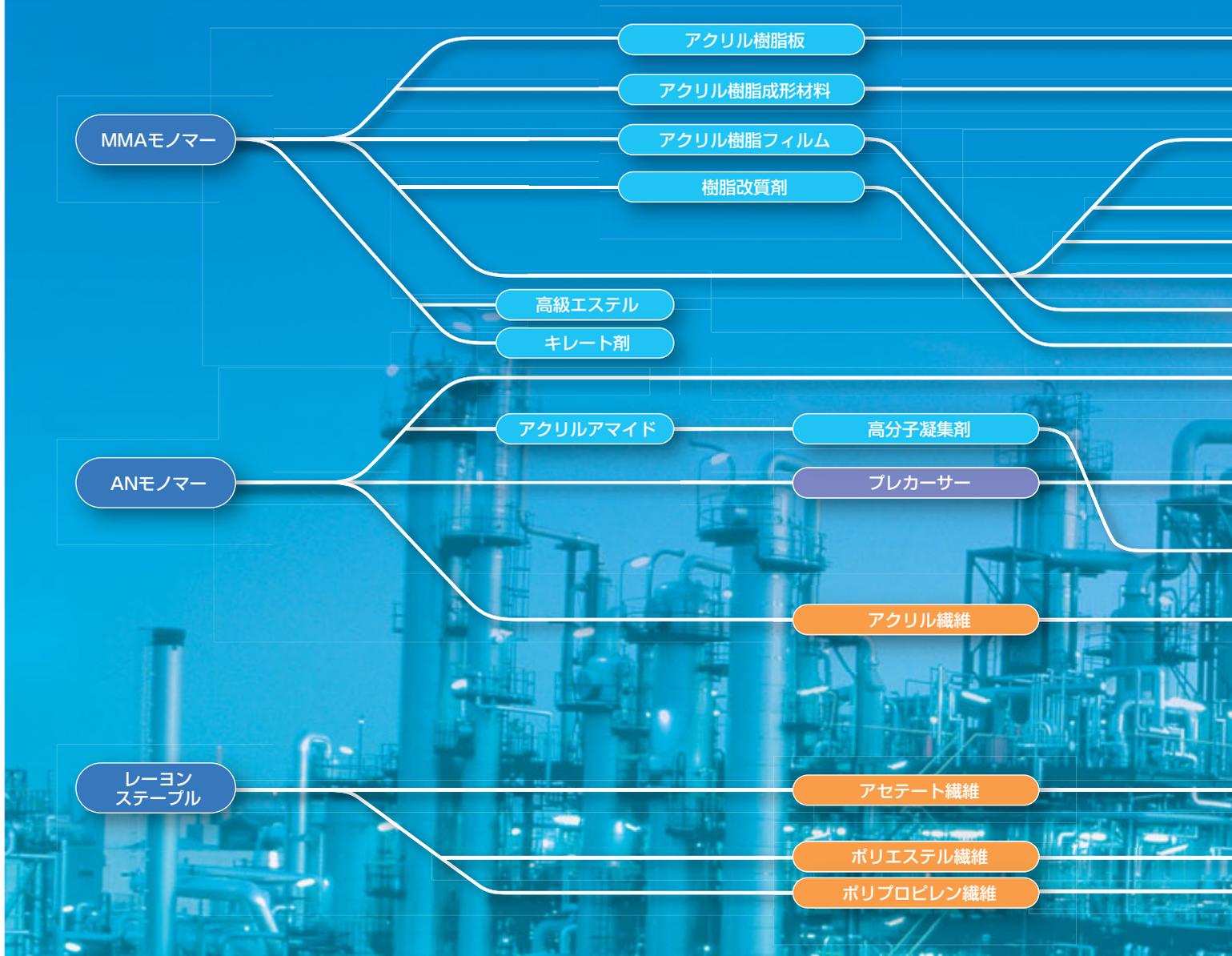
また、当社グループが、グローバル企業として持続的に成長していくためには、製品の開発から販売までの、生産、営業、事務全般にかかわる効果的・効率的なバリュー・チェーンを創り上げていくことが必要です。MCHCグループ内の協奏を活かし、グループの経営資源を活用することで、インフラ機能や研究開発力の強化、M&Aや事業提携に取り組んでいきます。

当社グループは、経営理念“Best Quality for a Better Life”「私たち三菱レイヨングループは最高の質を追求し、人々の豊かな未来に貢献します。」を基本に、新中期経営計画「New Design APTSIS 15」の実現を通して、MCHCグループの掲げるKAITEKIを実現し、持続可能な豊かな未来社会の実現に向け貢献していきます。

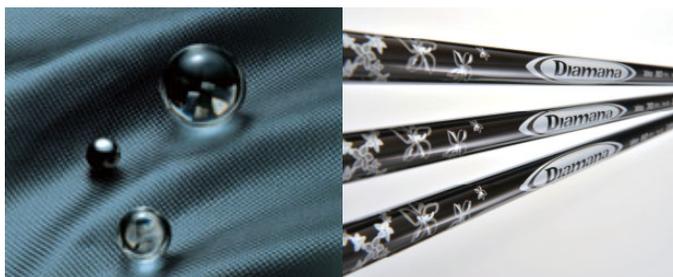


# 絶え間ない技術革新が人々の豊か

私たちは創業時のレーヨンスタープルからアクリル樹脂、そして合成繊維へと取り扱い素材を拡充し、それらで培った技術を基盤に次世代の中核事業となる先端素材分野へと発展させてきました。例えば、合成繊維の技術から生まれた中空糸膜は、水再生システムに活用され世界各国の水不足問題の解消に貢献しています。自動車や航空機の部材に使用される炭素繊維は、そのライフサイクルでCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減し、環境負荷低減に貢献します。三菱レイヨングループは、これまで受け継いできた企業文化と技術力で新しい製品を生み出していきます。

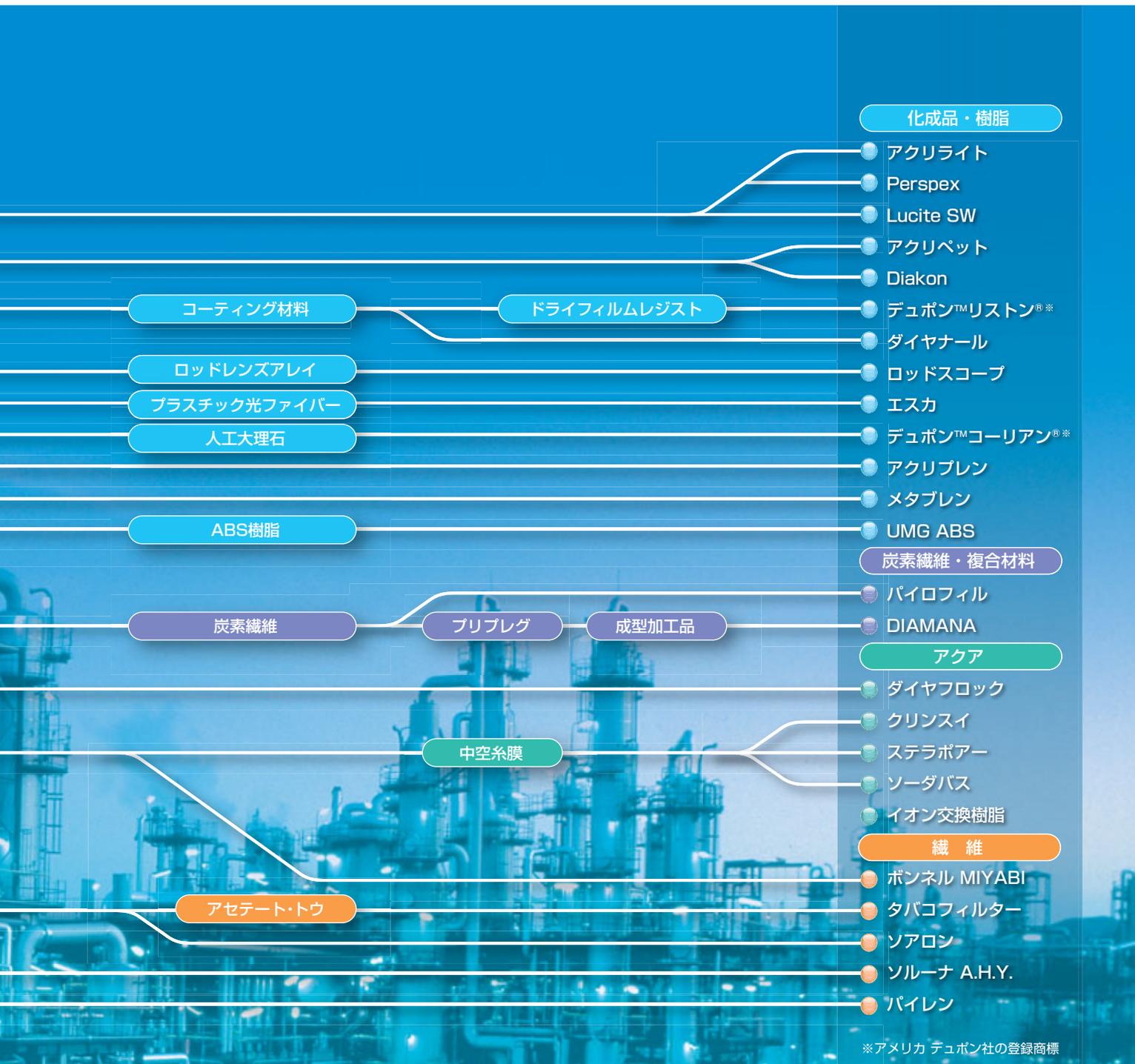


化成品・樹脂素材と先端技術との融合によって、次世代を担うさまざまな新素材・新製品を生み出しています。



「鉄より強く、アルミより軽い」炭素繊維は、航空宇宙、産業資材、スポーツ用途などさまざまな分野でその用途が広がっている注目の素材です。

# な未来をつくる



※アメリカ デュボン社の登録商標

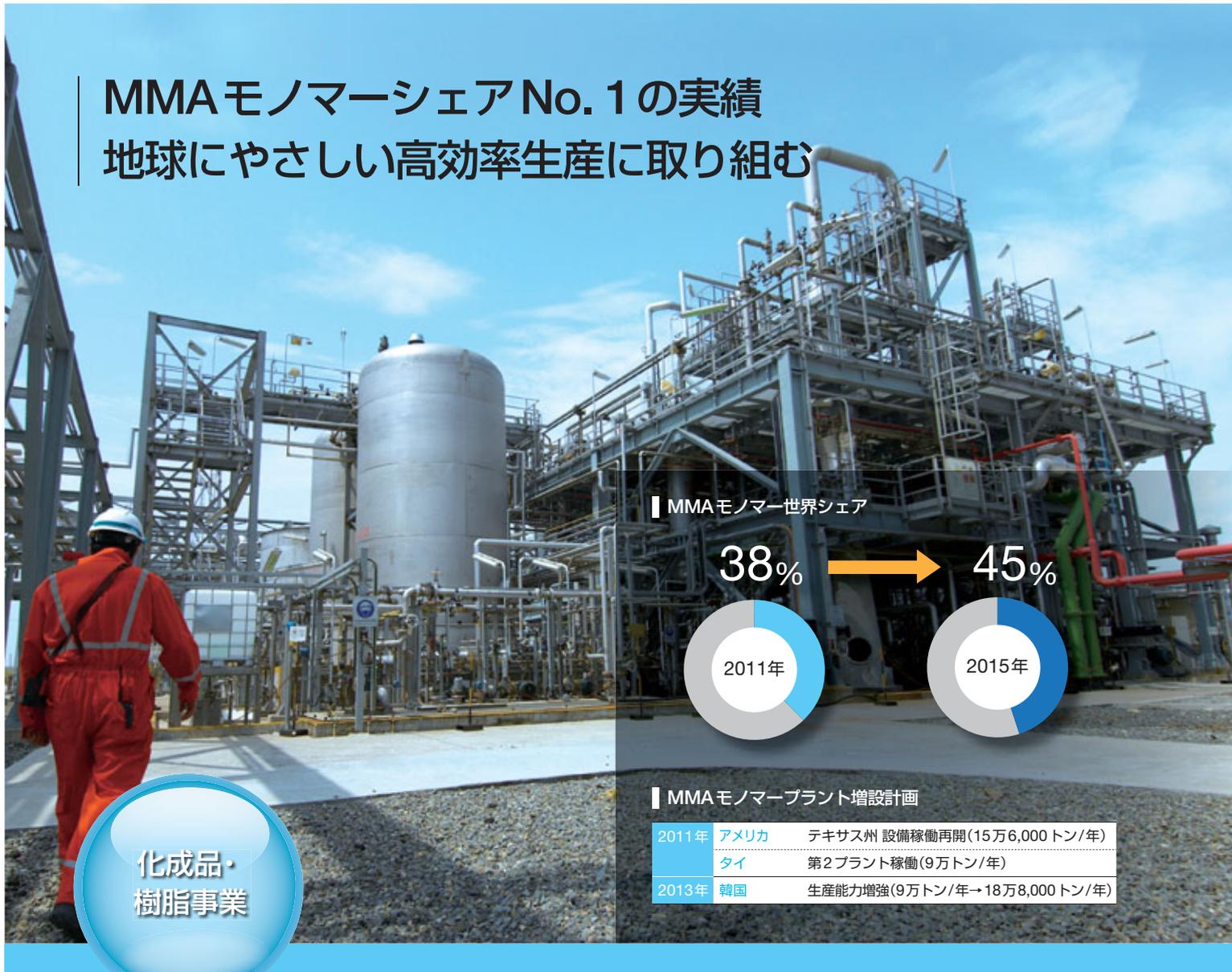


当社グループが長年培ってきた基盤技術と継続的な技術革新から生まれた中空糸膜やMBRシステムは、水・環境問題に貢献しています。



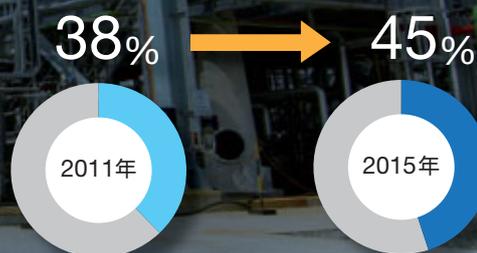
繊維事業は、時代のニーズとともに主要製品が変遷するも、独自の技術で新感覚の素材を提供しています。

# MMAモノマーシェアNo.1の実績 地球にやさしい高効率生産に取り組む



化成品・  
樹脂事業

## MMAモノマー世界シェア



## MMAモノマープラント増設計画

2011年	アメリカ	テキサス州 設備稼働再開(15万6,000トン/年)
	タイ	第2プラント稼働(9万トン/年)
2013年	韓国	生産能力増強(9万トン/年→18万8,000トン/年)

### 事業概要

MMAモノマーの主要3製法(ACH法、C4直酸法、新エチレン(アルファ)法)全てを保有する世界唯一、かつ世界最大の企業グループとして複数国に製造拠点をもち、MMAモノマーからポリマーまで一貫した事業群(MMAチェーン)をワールドワイドに展開しています。また、アクリル繊維、ABS樹脂、AN(アクリロニトリル)系事業は、グループ内各製品の原料供給を担い、事業競争力を支えています。AN誘導品事業は、高性能触媒、高分子凝集剤、製紙用薬剤などを展開しています。

### 2010年度実績と今後の展開

2010年、MMAモノマー、ポリマーは、LEDテレビ向け部材用途などを中心に世界的に大幅に需要を拡大し、日本・韓国・中国・タイ・欧米の各生産拠点ともフル生産・フル販売と

なりました。MMAモノマーは、自動車のテールランプなどの成形材料、携帯電話などの樹脂面板、LEDテレビや液晶ディスプレイ用導光板といったIT機器向け部材から、看板、塗料、フィルムなどの建築資材まで、さまざまな用途に使われます。MMAモノマーは世界的に一層の需要拡大が見込まれており、各生産プラントの一層の生産能力増強を進めます。またAN系事業も、さらなるコスト競争力強化と製品の高性能化を進め、売上拡大を図ります。

### Best Quality for a Better Lifeに向けて

MMAモノマー及び各種ポリマー製品生産プラントの継続的な技術革新により、製品品質と生産性のさらなる向上を進めています。



### KAITEKI素材としてのアクリル樹脂

アクリル樹脂導光板は、急拡大しているLED面光源の主要部材として使用されています。このLED面光源は、液晶テレビ、液晶ディスプレイ、照明、看板などさまざまな用途に用いられており、省電力化によって省エネに寄与するとともに身体に安全な水銀フリー素材として、私たちのKAITEKIに貢献しています。

# 原料から複合材料までの一貫生産で 新エネルギー需要を取り込む



炭素繊維・  
複合材料事業



アクリロニトリル(ANモノマー)

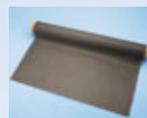


プレカーサー(炭素繊維専用のアクリル繊維)



炭素繊維トウ

炭素繊維を数千～数万の単位で束ねたもの。クロスに織ったり、一方向に揃えて樹脂を含浸させたり、さまざまな使い方をします。



クロス

炭素繊維トウの織物で、平織、綾織、朱子織など用途に合わせた織り方をします。風力発電の風車、高圧ガスタンク、ゴルフシャフト、テニスラケットなど、さまざまな加工品になります。



プリプレグ

炭素繊維に樹脂を含浸させたもので、優れた性能を発揮させるためには、綿密に設計されたマトリックス樹脂との良好な組み合わせが不可欠です。

## 事業概要

三菱レイヨングループは、炭素繊維《パイロフィル》と、それを基材とした中間材料や成型加工品に至る一貫した世界屈指のプロダクトチェーンを有し、アメリカ、欧州、アジアの三極のマーケットで事業の水平展開を行っています。これらの材料は、スポーツ用品、産業資材、航空機、自動車、風力発電翼などの環境分野で幅広く活用されています。

## 2010年度実績と今後の展開

当社は2010年4月、ドイツに本社をおく SGL Technologies GmbH (以下SGL社) と炭素繊維プレカーサー (以下プレカーサー) を製造・販売する合弁会社「MRC-SGLプレカーサー株式会社」(以下MSP社) を設立しました。MSP社は、ドイツの自動車メーカーBMWグループとSGL社の合弁会社SGL

Automotive Carbon Fibersへ、炭素繊維原料のプレカーサーを供給していきます。

2011年6月より大竹事業所にて、高性能ラージトウの《パイロフィルP330シリーズ》の新工場が稼働を開始しました。《パイロフィルP330シリーズ》は大型成型品に適した加工性と、競合製品と比べて高強度、高弾性率の特性を持ち、産業資材、環境分野などでの需要拡大が期待されています。

## Best Quality for a Better Lifeに向けて

当社グループは、MCHCグループとの連携を通じて、中間材料や加工技術における競争優位性を強化していきます。航空機、自動車向けなどの次世代炭素繊維・複合材料の開発を進めることで、持続可能な社会の構築に貢献していきます。



**軽さと強さの実現** 炭素繊維は、軽さと強さをあわせ持つ低燃費化製品の有力素材として、世界的に需要が高まっています。最近では大型風力発電翼など、新エネルギー分野でも世界的にニーズが高まっています。当社の炭素繊維垂直チェーン、アメリカ、欧州、アジアの三極で事業を展開する強みを活かし、これら世界のニーズに応えていきます。

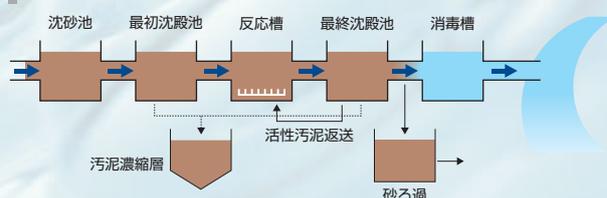
# MBRシステムで 成長市場の水再生に貢献

## アクア事業

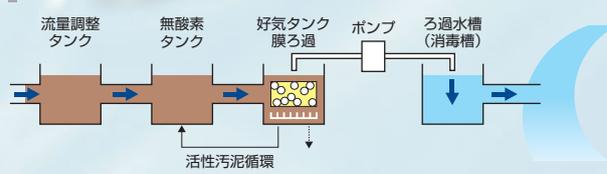


《ステラポアー》  
MBR用中空糸膜

### 標準活性汚泥法フロー



### 膜分離活性汚泥法フロー



### 事業概要

三菱レイヨングループは水環境事業をグローバルに展開し、世界トップレベルの水環境事業のトータル・ソリューションの推進を図っています。MBRによる再生水事業、産業・医療分野で活用される中空糸膜フィルター《ステラポアー》、浄水器《クリンスイ》を主力事業・主力製品としています。

### 2010年度実績と今後の展開

当社は、2010年7月にアクアブロックを新設しました。グループ企業との連携を活かし、膜・イオン交換樹脂・MBRシステム・浄水器で水処理事業を総合的に展開しています。

当社はシンガポールの公共事業庁と省エネルギーMBRの実証を続けてきました。当期は、シンガポール最大となる排水処理場に当社のMBR用途の精密ろ過膜の採用が決定しま

した。この排水処理場は2011年内の稼働開始を目指しています。

今後は、中国で大型MBR案件の高い受注力を持つ北京オリジン社との提携を通して、中国市場における水処理事業を加速させます。また、MCHCグループとの連携を活かし、石油化学市場への当社水処理設備の導入を図ります。これにより、アクア事業の海外基盤の拡充を図っていきます。

### Best Quality for a Better Lifeに向けて

急激な成長を続けるアジア地域では、都市化や工業化に伴う水・環境問題が大きな問題となっています。当社グループが培ってきた技術とノウハウは、用水処理・排水処理、水域の浄化や再生水事業技術に活かされ、当地域の経済成長を環境面とあわせ支援しています。



### 清潔・洗浄の提供

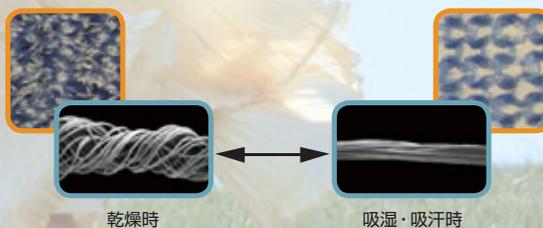
当社グループには、中空糸膜、イオン交換樹脂、高分子凝集剤、油分吸着剤など、さまざまな水処理関連技術が蓄積されています。それらを活用することで、飲料水から産業排水の処理、そのリサイクルなど、水の循環体系全てを改善することができます。それは社会全体の健康、衛生、快適に直結すると考えています。地球のKAITEKIの実現につながる水環境のKAITEKIの実現を、これからも追求し続けます。

# 独自商品の開発で市場を創造 バイオマス素材は 機能向上にも貢献



## 繊維事業

### 《ベントクール》湿度に応じて通気を調整



### 事業概要

三菱レイヨングループは、機能性と汎用性に優れたアクリルと、ファッションと機能をリードするバイオマス素材のアセテート、環境への負荷が少なくリサイクル性に適したポリプロピレンを生産する化学繊維メーカーです。

私たちは、独自のポリマー設計・紡糸技術を活かして、時代のニーズに合った素材の開発に取り組み、これらの素材は衣料から産業資材まで社会のあらゆるシーンで活用されています。

### 2010年度実績と今後の展開

2010年は、アクリル短繊維《ボンネル》では発熱保温機能と帯電防止機能を備える《コアブリッドサーモキャッチ》とソフトで抗ピル性（毛玉がでにくい）に優れた《MIYABI》を戦略素材として生産の拡大を図り、国内・外で多くの消費者の

支持を得ました。2011年は、《MIYABIシリーズ》として、キトサンを加え清潔を訴求した《MIYABI・FRESH》を投入し、中国を中心に欧米にも販路を拡大していきます。

アセテートは欧米のトップブランドでも使用されている《ソアロン》テキスタイルの拡販と、除湿・通気性コントロール素材《ベントクール》の販売強化を図りました。2011年は国内・外の新しい流通販路へも積極的に展開していきます。

ポリプロピレン繊維《パイレン》は、2011年に向けてバイオマス・ポリエチレン複合のカーペット素材の販売をスタートします。

### Best Quality for a Better Lifeに向けて

繊維事業は、独自の機能性商品を通じて、衣料、インテリア、産業資材などあらゆる分野で快適なライフスタイル、快適な社会実現のための提案を世界に向かって行っています。

### 新機能商品の提供

繊維事業は、KAITEKIを実感できる機能商品の開発に取り組んでいます。

今年度は東日本大震災の影響により、国民活動として「節電アクション」が実施されています。その一施策として、日本の繊維技術でサポートする「クールビズテック」事業に積極的に協力しました。《ベントクールシリーズ》の商品を協賛商品として、イベントなどを通じて快適な夏を提案しました。



私たちは事業活動を通じて “Best Quality for a Better Life”  
を実現し、社会とともに持続的成長を図っていきます。

行動憲章

お客さまに対する  
ベストクオリティ

- 1 お客さまの視点に立ち、安全で高品質な製品やサービスを提供します。
- 2 公正な取引を行い、お客さまと強い信頼関係を築きます。
- 3 イノベーションを通してお客さまと共に成長します。

社会・環境に対する  
ベストクオリティ

- 4 安全の確保と環境の保全に積極的に取り組みます。
- 5 法令を遵守し、情報の開示及び管理を適切に行います。
- 6 多様な文化を尊重し、社会及びステークホルダーとの共生に努めます。

自らの  
ベストクオリティ

- 7 仕事に対する情熱と使命感、そして自己を変革する勇気を持ち続けます。
- 8 お互いの個性を尊重し、健康で働きやすい環境を構築します。
- 9 世界中のパートナーと連携し、自らの能力を最大限に発揮します。

三菱レイヨングループの行動憲章は、技術革新を通じたお客さまとの成長、安全や環境への配慮、法令遵守、倫理観の向上、多様な文化の尊重、自己の変革、人を活かす経営、企業の社会的責任等、さまざまな思いを込めて制定されました。これらの視点に基づいて整理された企業倫理行動基準とあわせ私たちの行動規範とし、“Best Quality for a Better Life”を実現し、社会とともに持続的成長を図っていきます。

## 企業倫理行動基準

- 1-1. お客さまの視点に立ち、安全で高品質な製品やサービスを提供します。
  - 2-1. 販売先、購買先、業務委託先等のすべての取引先と、相互信頼に基づく適切な関係を保ちます。
  - 2-2. 贈答・接待は良識の範囲で行い、不正な目的のためには行わず、また受けることもしません。
  - 3-1. お客さまの意見に真摯に耳を傾け、誠実な対応を行うとともに、製品の開発・改良・製造及び販売に役立てます。
  - 3-2. 提供した製品・サービスに、事故やトラブルが生じた場合には、迅速かつ適切な対応を行います。
- 4-1. 安全を全ての事業活動において優先するものとし、安全操業の確保、化学物質の適正管理を含む製品・サービスの安全性の確保に自主的に取り組みます。
  - 4-2. 生物多様性を含む地球環境の保全に積極的に取り組み、省資源・省エネルギー、廃棄物の削減・再利用に努め、環境負荷の低減に貢献する新技術や製品・サービスを開発します。
  - 5-1. 国際ルールを守り、各国の法令及び会社の規則を遵守します。
  - 5-2. 高い倫理観と社会的良識を持ち、違法の疑いのある行為は行いません。
  - 5-3. 独占禁止法その他の関係法令を遵守し、カルテルや談合、優越的地位の濫用などを行わず、公正で自由な競争を行います。
  - 5-4. 外国為替及び外国貿易法その他の関連法令を遵守し、輸出管理を適正に行い、国際的な平和と安全の維持を妨げるおそれのある製品や技術の輸出は行いません。
  - 5-5. 営業秘密や特許権、著作権、技術ノウハウ等の知的財産を侵害しません。
  - 5-6. 従業員や取引先等の第三者の個人情報については、個人情報保護法等の法令に従い、厳重かつ適正に管理します。
  - 5-7. 秘密情報を適切に管理し、インサイダー取引の発生を防止します。
  - 5-8. 違法な政治献金や利益供与は行わず、反社会的勢力や団体には毅然と対応します。
  - 5-9. 財務内容や事業活動状況などの経営情報を、適時・適切に開示し、企業活動の透明性を保ちます。
  - 6-1. それぞれの国や地域の文化や慣習を尊重し、社会との共生に努めます。
  - 6-2. 顧客・消費者、取引先、従業員、株主・投資家、地域社会等の様々なステークホルダーとの関係を重視し、適正かつ友好的な関係の維持、発展に努めます。
- 7-1. 社会に貢献する価値の創造に情熱を燃やし、高い理想と使命感を持って仕事に取り組みます。
  - 7-2. グローバルな視野で環境変化を敏感に捉え、常に問題意識と改革を志す熱意を持ちます。
  - 7-3. 自らの役割をよく認識し、必要な能力を高めるとともに、目標に果敢にチャレンジし、その達成に努めます。
  - 8-1. 個人の人権・人格・個性を尊重します。
  - 8-2. 人種、国籍、性別、思想、信条、信仰、障がい等を理由とする不合理な差別をしません。
  - 8-3. 従業員に能力開発の機会と活躍の場を提供し、多様な人材を活用し、育成します。
  - 8-4. コミュニケーションとチームワークを大切にす職場風土・環境を創ります。
  - 8-5. ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の両立)を尊重し、メリハリのある働き方を推進します。
  - 8-6. 職場における、相手方の意に反する性的な言動や、職務上の必要性を越えた人格や尊厳を侵害する言動を許しません。
  - 8-7. あらゆる形態の強制労働、児童労働を排除します。
  - 8-8. 組合活動を尊重し、より良い労使関係を築きます。
  - 8-9. 社会への貢献を通じ従業員が誇りを持って働ける会社となります。
  - 9-1. 世界中のパートナーと連携し、自らの能力を最大限に発揮します。

お客さまに対するベストクオリティ

## 三菱レイヨングループは 最高の質を追求し、 人々の豊かな未来に 貢献します。

お客さまの視点に立つということは、安全で高品質な製品やサービス提供のためはもちろんのこと、当社グループだからこそ提供できる優れた商品と細やかなサービスの要であることとらえています。さらに、お客さまとの信頼関係を築き、お客さまとともに成長することで、お客さまに対するベストクオリティをお届けできると、私たちは考えています。

1 お客さまの視点に立ち、安全で高品質な製品やサービスを提供します。

P17

2 公正な取引を行い、お客さまと強い信頼関係を築きます。

P19

3 イノベーションを通してお客さまと共に成長します。

P20

# 1 お客さまの視点に立ち、

## 工程ごとのチェックで安全な製品を提供

三菱レイヨングループは、上市前、生産管理、物流安全対策として以下のチェック体制を整備し、お客さまへ安全な製品をお届けしています。

### 上市前のCheck!

安心できる製品を提供するため、新製品や新用途に対してはもちろん、製法・製造場所の変更、新たな危険性・有害性の情報があった場合にも、安全性の評価・審査を行っています。

### 生産管理のCheck!

安定した品質を確保するためISO9001を採用し、生産管理を行っています。グループ会社でも同様の管理を推進しています。

### 物流安全対策のCheck!

物流事故を防止するため、物流業者と定期的に協議会を開催し、事故事例の研究や輸送している製品についての教育を行っています。また、事故が発生した場合の対応を記載したイエローカードを運転手に常時携行させ、被害を最小限に抑えられるようにしています。

お客さまへ

## コミュニケーションを通じた安全性の確保

三菱レイヨングループは、お客さまと積極的にコミュニケーションを図ることにより、お客さまの視点に立ち、最高の商品をお届けするために製品の安全性確保に努めています。お客さまに製品の安全性・環境性・機能性をご理解いただき、当社グループ製品に関するあらゆるご意見やご要望に対応できる体制を強化しています。

## お客さまへ技術サービス・情報を提供

各国で異なる法規制に対応するとともに、お客さまの要請に応じて製品スペック (Material Specification) を開示しています。また、繊維加工業者に対し、技術マニュアルの作成、技術者派遣、品質管理データベースの作成などの技術サービスを行っています。

## お客さまとの情報交換の場: オープンラボ

DNAチップ《ジェノパール》を幅広くお客さまに知っていただき、お客さまとの情報交換の場として、横浜先端技術研究所内のオープンラボをご活用いただいています。オープンラボでは、《ジェノパール》及び周辺装置の使用方法の紹介、デモンストレーションが可能です。さらにDNAチップに対するお客さまのご意見・ご要望なども伺っています。

# 安全で高品質な製品やサービスを提供します。

## お客さま窓口

消費者向け製品である家庭用浄水器《クリンスイ》に関しては、フリーダイヤルのお客さま窓口を設置し、お客さまからのご意見、お問い合わせ、苦情に対応しています。

## お客さまの声を製品に活かす

展示会にも積極的に参加し、多くのお客さまとの直接対話に努めています。より満足いただける商品やサービスを目指すため、お客さまの声を製品安全や品質の向上に活かしています。

## 法規制と自主管理に基づく製品安全・品質管理

### 本登録を進めるREACH\*

2010年期限であった高生産量物質6物質の登録を完了し、現在は2013年期限の物質について欧州コンソーシアムと協調し、登録準備を進めています。また2010年より、三菱化学との緊密な情報交換による情報共有を進めるとともに、在欧グループ会社であるルーサイト社を登録代理人の1社として、効率的な登録準備を行っています。

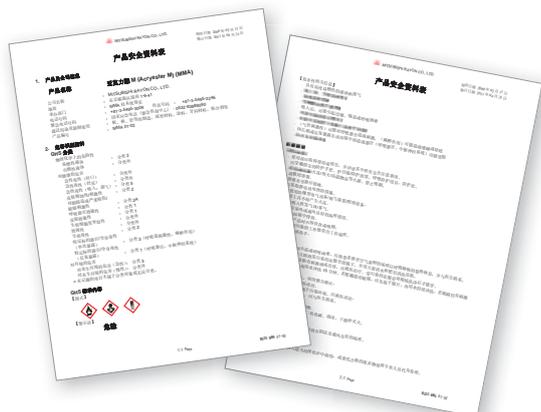
※REACH: Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals / 欧州連合における人の健康や環境の保護のための規制

### 各国への対応図るGHS\*\*1

日本国内については、MSDS\*\*2への反映はすでに完了していますが、昨今、中国、韓国、台湾など東アジア諸国が順次自国法としてのGHS規則を制定し、法制化する動きが活発化しています。当社は各国のGHS情報入手ルートの確立を進めながら、適宜各国GHSへの対応を図っています。

※1 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals / 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム

※2 MSDS: Material Safety Data Sheet / 製品安全データシート



中国で配布されているGHS関連資料

## GPS(グローバル・プロダクト戦略)を推進

GPSとは、化学物質の有害危険性を生産者自身が評価し公開する制度であり、ICCA\*主導のもとに日本化学工業協会が主催するワーキング・グループに当社が参加し、ガイドラインの編さんを支援しています。当社はMCHCグループの方針に沿って三菱化学と協調してGPS安全評価書を作成する計画であり、2015年までに当社生産物質の70%について完了する予定です。

※ICCA: International Council of Chemical Associations / 国際化学工業協会協議会

## グリーン調達調査を推進

三菱レイヨングループは、原材料などの調達品に含まれる環境負荷物質や人の健康に害を与えるおそれのある物質などを把握し管理するため、2005年度にグリーン調達調査を開始しました。2010年度も調査を継続し、調達先より得た回答書を精査し必要な対応を実施しています。

2011年度も、適正な化学物質管理を推進していきます。

## PCB(ポリ塩化ビフェニル)全廃への処理を開始

2001年に施行されたPCB特別措置法を遵守するため、当社グループでは2015年までに高濃度はもとより低濃度PCB含有機器についても全廃の方針を決定しています。高濃度PCB含有機器の処理は、PCB特別措置法に基づき設置された日本環境安全事業株式会社(JESCO)で集中的に実施されます。当社グループも処理計画を提出し、計画的な処理を予定していましたが、JESCOの稼働開始の遅れやトラブルのため、大幅に遅れていました。2010年度ようやく一部の事業所の高濃度PCB含有機器の処理が開始されました。低濃度PCB含有機器については、処理方法が決まったことから、今後適切に処理していきます。当初方針に遅れが出る可能性がありますが、法に則った確実な保管管理を継続し、全廃に向けて適切に廃棄します。

# 2 公正な取引を行い、お客さまと強い信頼関係を築きます。

## 企業倫理行動基準

2-1. 販売先、購買先、業務委託先等のすべての取引先と、相互信頼に基づく適切な関係を保ちます。

2-2. 贈答・接待は良識の範囲で行い、不公正な目的のためには行わず、また受けることもしません。

### CSR調達の本格推進を通じて KAITEKIへの貢献目指す

三菱レイヨングループは、環境に配慮した製品を通じて最高の質を追求できるよう、CSR調達を推進しています。そして、以下の5項目のCSR調達方針を策定し、調達活動を進めています。

1. 法令・社会規範の遵守
2. 購入製品の環境保全と安全性の確保
3. 人権尊重と労働環境の向上
4. パートナーシップの構築
5. お取引先さまへの要望

現在、その第1ステージとして取り組んでいるのが、アンケートによる調達先の実態調査です。本アンケートは、2008年度から2010年度の3年間で取り組み、2010年度は実施最終回となりました。

### CSR調達アンケート調査概要

実施期間：2008年～2010年の各年度の12月～1月  
(約2カ月間)

調査対象：支払い金額及び発注件数の各上位90%を目標とし、本年度は228社を対象に実施。(3力年合計は595社(金額98%、件数91%)を達成)

調査方法：CSR調達方針を説明後、調査票を渡し回答を依頼

### CSR調達アンケート

要望事項	取り組み内容	自主評価※
1. 法令・社会規範の遵守	① 会社法、独占禁止法、下請法、知的財産権関連法規、労働関連法規、交通関連法規及び環境関連法規など、事業活動に適用される法令を遵守します。	1、2、3
	② 政治・行政とのもたれ合いや、反社会的勢力・団体に屈服したり癒着したりしません。	1、2、3
	③ 事業活動にかかわる顧客・消費者、地域社会、株主・投資家、取引先などのステークホルダーとの関係を重視し、適正かつ有効な関係の維持、発展に努めます。	1、2、3
	④ 個人・顧客情報についての入手・利用・開示について、適切な管理を行います。	1、2、3
2. 環境保全と安全性が確保されたサービスの提供	⑤ 環境保全と安全確保に配慮したサービス提供を推進します。	1、2、3
	⑥ 事業活動や提供するサービス全般にわたり安全の配慮と環境負荷の低減に努めます。	1、2、3
3. 人権尊重と労働環境の改善・向上の取り組み	⑦ グローバル・コンパクト精神に則り「人権・労働基準・環境・腐敗防止」について、自社の影響力の及ぶ範囲内で、国際的に認められた規範を支持して実践します。	1、2、3
	⑧ 従業員の人権・人格・個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保してキャリア形成や能力開発を支援します。	1、2、3
4. 適正な品質・価格、確実な納期、迅速な情報の提供	⑨ 常に新しい商品、サービスの研究開発に努めて、社会的に有益な商品・サービスをお客さまに提供します。	1、2、3
	⑩ 適正な品質・価格の原材料のみを指定納期に納入するとともに、製品に関する有益な情報サービスを提供します。	1、2、3

※取り組み状況の自主評価基準

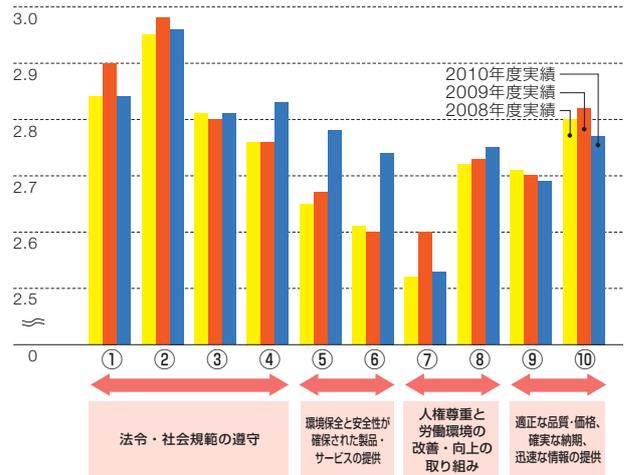
1点：これから周知徹底させ行動(検討)する／2点：取り組んでいるが、現状は未だ不十分／3点：取り組んでおり、ほぼ実践している

### CSR調達アンケート結果概要

アンケートの結果、2009年度に引き続き「法令・社会規範の遵守」が浸透し、政治・行政とのもたれ合い、反社会的勢力・団体への屈服・癒着への対応が進んでいることがわかりました。当社グループの調達先は総じて自主評価が高い一方、グローバル・コンパクト精神に則った「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての取り組み(⑦)、及び有益な商品・サービスの提供(⑨)についての自主評価は低い結果となりました。

2011年度は、CSR調達の浸透を目指し、MRCのCSR活動を取引先に発信していくとともに、自主評価の低い項目(⑥、⑦、⑨)の共同啓蒙を行っていきます。また、現在購入している物品について、グリーン調達でリストアップされている有害物の含有品調査を実施し、より環境に配慮した購買活動を推進していきます。さらに今後、調達の基準にMOS指標\*を取り入れ、KAITEKIの実現に貢献していきます。

\*MOS指標：Management of SUSTAINABILITY/Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)の3項目を基準にした指標



#### MOS指標

Sustainability 指標	地球環境負荷の削減への貢献
	省資源、エネルギー枯渇対応の実践
	調達を通じての環境負荷削減の貢献
Health 指標	疾病治療への貢献
	QOL向上への貢献
	疾患予防・早期発見への貢献
Comfort 指標	より快適な生活のための製品の開発・生産
	ステークホルダーの満足度の向上
	より信頼される企業への努力

## 3 イノベーションを通してお客さまと共に成長します。

#### 企業倫理行動基準

- 3-1. お客さまの意見に真摯に耳を傾け、誠実な対応を行うとともに、製品の開発・改良・製造及び販売に役立てます。
- 3-2. 提供した製品・サービスに、事故やトラブルが生じた場合には、迅速かつ適切な対応を行います。

#### お客さまと三菱レイヨングループをつなぐ MRCイノベーションブリッジ

当社グループは、各研究所で行われている多様な分野の研究開発品を一堂に集めた「新規研究開発品発表会～MRCイノベーションブリッジ～」を本社にて定期開催しています。MRCイノベーションブリッジは、研究開発から生まれた新たな開発品を市場の最新の声を知る営業担当者に紹介し、用途開発や販路などのアイデアを集めることで事業化への可能性を広げるために行われている取り組みです。2010年度は5月に開催しました。発表件数は26件と前回より多く、発表者のこのイベントに対する意気込みも表すものとなりました。会場には新規開発テーマに関するパネルと開発品のサンプルが展示され、本社の営業部員だ

けでなく、本社スタッフも数多く参加し、各所で開発テーマを担当している研究部員と活発に情報交換する光景が見られました。

当社グループは、事業の成長とは、お客さまとの「共創」「共業」と考えており、これによってお客さまに対して新しい技術やアイデアを提案することを目指しています。



研究部員から説明を受ける参加者

社会・環境に対するベストクオリティ

## 三菱レイヨングループは 最高の質を追求し、 人々の豊かな未来に 貢献します。

私たちは、安全の確保と環境保全への積極的な取り組みによって、最高の質を追求しています。その取り組みは、企業倫理行動基準に基づき推進されています。私たちは、法令遵守、透明な経営、社会との共生を通じて、社会・環境に対するベストクオリティをお約束します。

### 4 安全の確保と環境の保全に積極的に取り組みます。

P21

### 5 法令を遵守し、情報の開示及び管理を適切に行います。

P25

### 6 多様な文化を尊重し、社会及びステークホルダーとの共生に努めます。

P27

## 4 安全の確保と環境の

企業倫理行動基準

4-1. 安全を全ての事業活動において優先するものとし、安全操業の確保、化学物質の適正管理を含む製品・サービスの安全性の確保に自主的に取り組みます。

4-2. 生物多様性を含む地球環境の保全に積極的取り組み、省資源・省エネルギー、廃棄物の削減・再利用に努め、環境負荷の低減に貢献する新技術や製品・サービスを開発します。

### 安全活動

#### 中期経営計画とリンクした三菱レイヨングループの安全・防災への取り組み

#### 2010年度の活動概要

2010年度は、2008年度から始まった中期経営計画の最終年度であり、同計画で掲げた 1.「休業災害と重大事故ゼロ」2.「グループ会社の支援」3.「対外約束事項の履行」を柱に、さらに成果が出るように活動の内容を見直しながら、安全・防災に取り組みました。

#### 1. 休業災害と重大事故ゼロに向けて

##### ● 国内の事業所を中心に実施した活動

- ① 経営幹部が安全の重要性を直接語りかける安全大会 (7月/4事業所)
- ② 各職制による毎日の一斉巡回(13時～13時半)
- ③ 自職場の過去の災害を風化させないための安全行事
- ④ 安全強化月間(12月)

##### ● グループ会社も含めて実施した活動

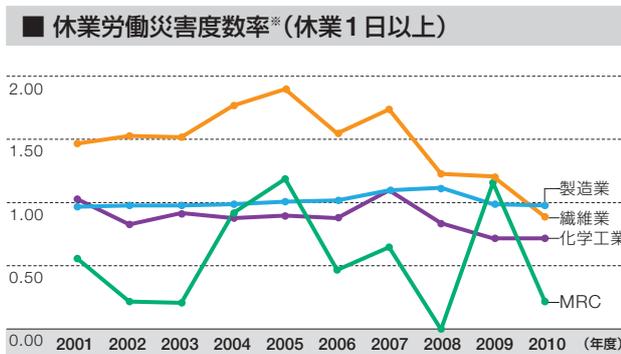
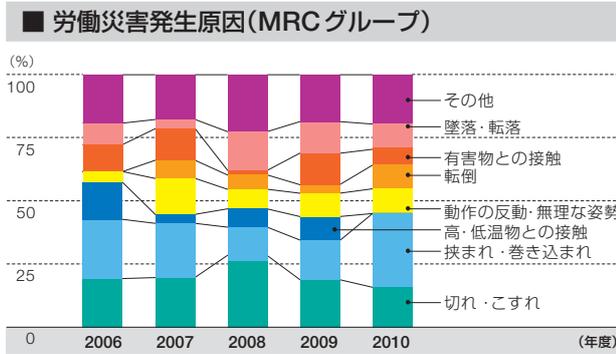
- ① 製造課長の教育と国内グループ会社の安全担当者の集合教育
- ② 新規及び更新設備の安全性評価(実施対象範囲の拡大)
- ③ 総合監査の報告・議論の内容の充実
- ④ 三菱麗陽(上海)管理有限公司の安環品\*・コンプライアンス室による中国グループ会社の監査など

\*安環品:安全・環境・品質

# 保全に積極的に取り組みます。

## ● 労災について

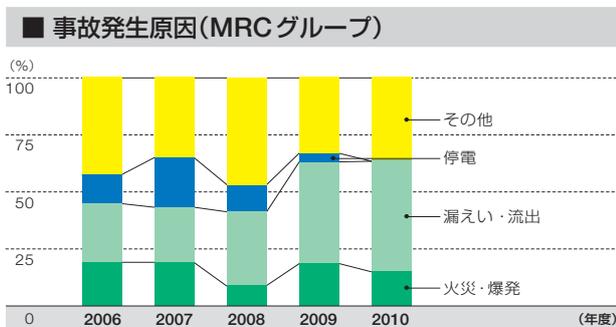
グループ全体の総件数、休業災害件数ともに昨年と同じ件数でした。今後も削減に向け努力していきます。



\*休業労働災害度率：延べ労働時間100万時間当たりの休業労働災害者数

## ● 事故について

グループ全体の発生総件数は、ここ数年低下傾向にありましたが、2010年度は若干増加に転じました。漏えい・流出事故が主に増加しました。早期発見、早期対応により、大きな事故には至っていませんが、異常を発生させない予防管理に一層の力を入れ、対策を進めていきます。



## 2. グループ会社の支援

2010年度も2009年度に引き続き、国内の製造関係のグループ会社に対して、安全環境担当者の教育を2回実施しました。改正された法令や安全管理手法、MRCの活動状況の紹介など、実務を行う上で参考となるものをその内容としました。また、中国では、2010年度も三菱麗陽(上海)管理有限公司の安環品・コンプライアンス室が、安全管理体制の強化・拡充、監査、教育など多岐にわたって施策を実施しました。

## 3. 対外約束事項の履行

化学物質の環境への排出量削減、廃棄物の外部埋立量削減、地球温暖化防止について目標を定め取り組んでいます。詳細はP23の環境負荷低減への取り組み、P24の地球温暖化防止への取り組みをご参照ください。

## 2011年度の活動計画

### 1. 休業災害と重大事故ゼロを目指して

第7次中期経営計画の初年度である2011年度は、今までの施策を実効の上がるものに見直した活動とします。

### 2. 大規模災害への備え

地震災害発生時の対応シナリオを策定し、訓練を実施していきます。

### 3. 事故撲滅に向けて

減少傾向が見られない漏えい・流出事故の防止は、検証と見直しを行い、予防管理に重点をおき、対応していきます。

## 安全3原則

- 決めたことは守る
- 安全優先の行動をとる
- 管理者は安全確保の責務を果たす

### Three Principles of Safety

- Honor your commitments
  - Make safety your top priority in your conduct
  - Managers shall be responsible for securing safety
- 关于安全的基本三原则

- 遵守已定事項
- 采取安全优先的行动
- 管理者履行确保安全的职责

\*「環境・安全・品質に関する監査結果」はウェブサイトに掲載します

環境負荷低減への取り組み

化学物質の管理

MRCグループは、第4期化学物質排出削減計画(目標年度:2010年度)に基づき削減活動を実施しました。今後も環境負荷の低減に努めるべく、2015年度を目標年度とした第5期化学物質排出削減計画を策定しました。

第4期化学物質排出削減計画(目標年度:2010年度)  
【目標】

1. 総排出量の削減

- ① MRCグループ(MRC及び2003年度末までに稼働したグループ会社)から排出されるMRC-PRTR調査対象物質\*(490物質)の総排出量について、2000年度(基準年度)の50%にする。
- ② 2004年度以降に稼働したグループ会社については、排出されるMRC-PRTR調査対象物質(490物質)の総排出量を2007年度(基準年度)の75%にする。

2. 個別管理物質の排出量削減

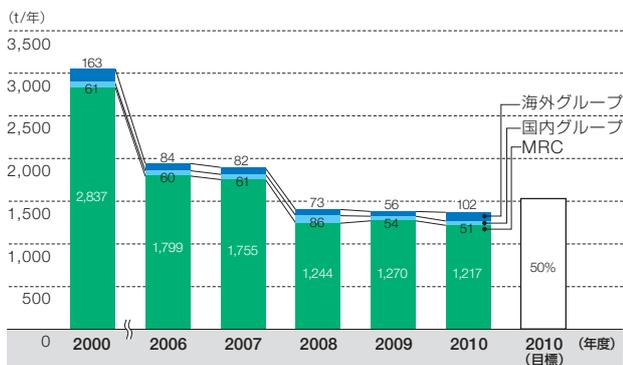
以下の物質毎に排出量の目標を設定し、削減する。

- ① MRCにおいて大気への排出量の多い大気汚染防止法優先取組物質を含むVOC16物質(MRCにおける大気への排出量)
- ② MRCグループにおいて排出量の多い5物質(MRCグループにおける全排出量)

【結果】

総排出量は、個別管理物質の削減をほぼ計画通り進めたことにより、目標を達成することができました。個別管理物質の排出量は、MMAの大気排出量が若干未達となりましたが、それ以外は目標値を達成しました。

■ 化学物質総排出量(第4期目標1.①)



第5期化学物質排出削減計画(目標年度:2015年度)  
【新たな目標】

総排出量の削減

MRCグループ(ルーサイト社を除く)から排出されるMRC-PRTR調査対象物質\*(442物質)の総排出量について、2005年度(基準年度)の70%にする。

※MRC-PRTR調査対象物質

日本化学工業協会が会員企業に対し実施しているPRTR調査の対象となっている480物質(法による届出対象物質354物質を含む)に、MRCからの排出量が多いジメチルアセトアミド他を加えた物質群のこと。2008年度の法改正における届出対象物質の変更に合わせ、第5期化学物質削減活動では、MRC-PRTR調査対象物質を日化協PRTR調査対象の433物質に、MRCとして追加の9物質を加えた442物質とした。

廃棄物の削減・リサイクル

MRCは、2010年度を目標年度とした外部埋立量の削減計画(動力燃焼灰を除く)に基づく削減活動を実施しました。また、今後も廃棄物の外部埋立量の低減に努めるために、MRCグループとして2015年度を目標年度としたゼロエミッション計画を策定しました。

外部埋立量削減計画(目標年度:2010年度)

【目標】

外部埋立量(除く動力燃焼灰)を2010年度までに1991年度比20%にする。

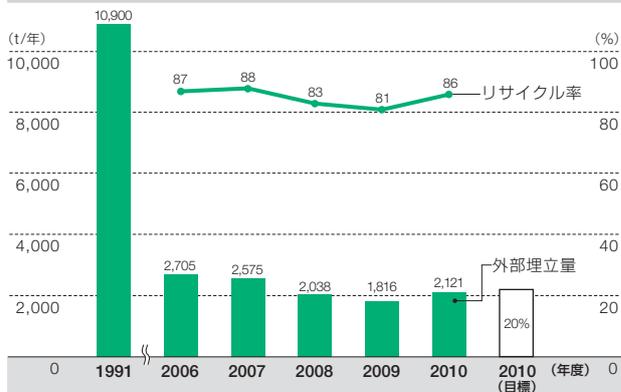
【結果】

外部埋立量(除く動力燃焼灰): 1991年度比19%  
(2010年度目標を約60トン上回る削減)

MRCにおける全廃棄物量: 8万4,000トン  
(前年度比2,000トン増)

リサイクル率: 86%

■ MRC外部埋立量(除く動力燃焼灰)及びリサイクル率



ゼロエミッション計画(目標年度:2015年度)

【新たな目標】

2015年までに国内のMRCグループ(事業所・会社単位)でゼロエミッションを達成する。

対象は、動力燃焼灰を除く全廃棄物とする。

## 地球温暖化防止への取り組み

### 低炭素社会に向けて

MRCグループは地球温暖化防止のために、色々な活動を行っています。当社グループから排出される温室効果ガスは、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)がほとんどです。その内、8割がエネルギー起源のCO<sub>2</sub>です。そこで私たちは、省エネルギーを中心に、燃料転換や省資源活動に工夫を凝らしながら、CO<sub>2</sub>の排出削減に努めています。

2011年度も引き続き、省エネルギー項目の発掘・施策を行い、エネルギーロスの撲滅に取り組んで、地球温暖化防止を推進していきます。

### 【目標】

#### 1. エネルギー消費原単位

1990年度と比較して2012年度までに20%以上の削減を目標に掲げています。

#### 2. エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量

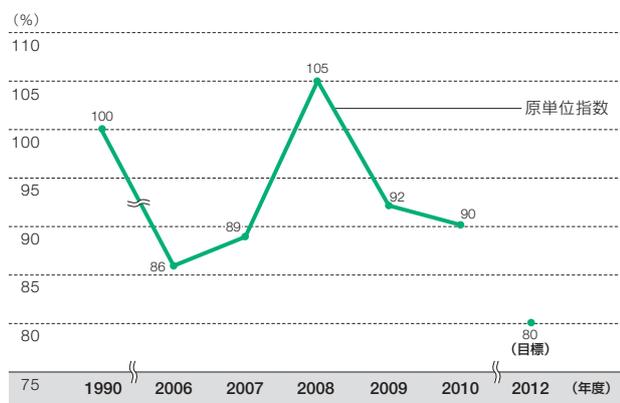
1990年度と比較して2008～2012年度の平均値で、同レベル以下にするよう努力します。

### 【結果】

省エネルギー活動を推進した結果、2010年度エネルギー消費原単位は、事業所の稼働率が向上したこともあり、昨年度と比べて2ポイント改善しました。

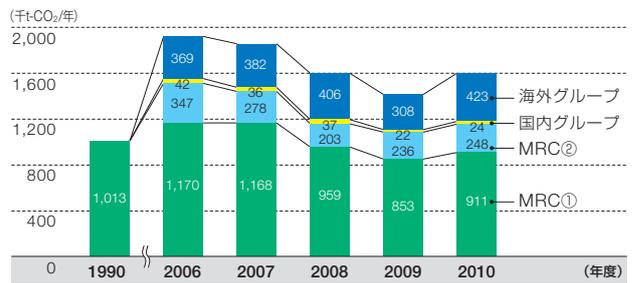
一方、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は排出量の抑制に努めたものの、稼働率向上の影響により91万トンとなり、昨年度より6万トン排出量が増加しました。

### ■ MRCエネルギー消費原単位指数



※エネルギー消費原単位指数の算出方法は基準製品換算方式  
 ※2009年度に値の見直しを実施し、一部値を修正

### ■ 温室効果ガス排出量(CO<sub>2</sub>換算)



※MRC①は4事業所のユーティリティ、工場使用燃料由来のCO<sub>2</sub>発生量  
 ※MRC②は地球温暖化対策推進法、省エネルギー法改正に伴って追加した対象由来のCO<sub>2</sub>排出量

### 物流における取り組み

MRCグループは、トラック輸送から船舶や鉄道輸送へのモーダルシフトを推進してきました。

2010年4月に国土交通省より「エコルールマーク取組企業」に認定され、同時に、タバコフィルター用アセテート・トウ、アクリル系コーティング材料《ダイナール》、アクリル樹脂成形材料《アクリペット》が「エコルールマーク認定商品」に認定されました。

今後も環境負荷低減に配慮した物流活動を積極的に進めていきます。



### ■ 物流(外部委託)におけるCO<sub>2</sub>排出量

年度	2006	2007	2008	2009	2010
CO <sub>2</sub> 排出量	17	15	11	11	12

※2006年度より改正省エネルギー法に準拠し、算出方法を変更

### 環境関連データの集計対象

製造加工を主体業務とする会社を対象としています。本文中の表記については①～④をご覧ください。対象となる会社、データの詳細はウェブサイトをご覧ください。

- ① MRCグループ:②～④を加えたもの
- ② MRC:三菱レイヨン及び三菱レイヨン事業所内のグループ会社
- ③ 国内グループ:②以外の国内の連結子会社
- ④ 海外グループ:海外の連結子会社

ウェブサイトもご覧ください。  
<http://www.mrc.co.jp/csr/>

### CSR>環境・安全活動

- 安全・環境・品質管理体制
- 環境負荷全体像
- 化学物質排出削減への取り組み
- 地球温暖化防止への取り組み
- 安全・防災への取り組み
- 廃棄物削減への取り組み
- 環境データ

## 5 法令を遵守し、情報の開示及び管理を適切に行います。

### 企業倫理行動基準

- 5-1. 国際ルールを守り、各国の法令及び会社の規則を遵守します。
- 5-2. 高い倫理観と社会的良識を持ち、違法の疑いのある行為は行いません。
- 5-3. 独占禁止法その他の関係法令を遵守し、カルテルや談合、優越的地位の濫用などを行わず、公正で自由な競争を行います。
- 5-4. 外国為替及び外国貿易法その他の関連法令を遵守し、輸出管理を適正に行い、国際的な平和と安全の維持を妨げるおそれのある製品や技術の輸出は行いません。
- 5-5. 営業秘密や特許権、著作権、技術ノウハウ等の知的財産を侵害しません。
- 5-6. 従業員や取引先等の第三者の個人情報については、個人情報保護法等の法令に従い、厳重かつ適正に管理します。
- 5-7. 秘密情報を適切に管理し、インサイダー取引の発生を防止します。
- 5-8. 違法な政治献金や利益供与は行わず、反社会的勢力や団体には毅然と対応します。
- 5-9. 財務内容や事業活動状況などの経営情報を、適時・適切に開示し、企業活動の透明性を保ちます。

### コーポレートガバナンス

#### 社長直轄の内部監査を実施

三菱レイヨンは、監査役、会計監査人による監査に加えて、社長直轄の監査室を設置し、社長自らのリーダーシップのもと、内部監査を実施しています。監査役、会計監査人及び監査室は定期的に情報交換を行い、社長も監査役、会計監査人との連絡会を持つなど相互に連携し、業務運営の改善、向上に努めています。

#### 内部統制システムの整備進む

三菱レイヨンは、「内部統制基本方針」に基づき内部統制システムを構築し、一層の整備に取り組んでいます。2010年度は「リスクマネジメント体制」を継続強化するとともに、財務報告の信頼性を確保するために必要な内部統制システムを整備し、適正に運用しました。

### コンプライアンス

#### 教育・研修・PRでコンプライアンスを徹底

三菱レイヨングループは、コンプライアンスは社会から信頼を得て成長していくための必須条件であるとの強い認識のもとに、年2回開催の企業倫理委員会において決定した活動方針に基づき、教育・研修・PRなどを実施して徹底を図っています。

2010年度は、社内講師によるコンプライアンスに関する部門別・階層別の教育・研修を適宜実施したほか、昨年を引き続き外部講師を招いての独占禁止法の基礎知識、ケーススタディなどを内容とする講演会も実施しました。また対象者の範囲を広げ、eラーニングによるコンプライアンスについての学習と理解度テストを実施しました。

さらに、企業倫理行動基準の改定に伴い「企業倫理行動基準ハンドブック」を作成、海外も含めた三菱レイヨングループの全従業員に配布し、コンプライアンス意識の一層の向上に努めました。

## リスクマネジメント

### リスク管理活動のデータベース化

三菱レイヨングループのリスク管理の取り組みは、リスク管理委員会が方針を決定し、基本プロセスを統括しています。各部署がリスクの洗い出しと自主点検を核としたPDCAを回転させ、リスク管理委員会がそれを集約します。そして、ブロック単位での報告を中心とした活動に加え、全社共通リスク対策項目を定めて、当該リスクに対応する部署による指導的リスク対策が行われています。また有事の際には、同委員会のもとに「危機対策本部」を設置し、損害の拡大抑止と早急な復旧に取り組めます。業務執行にかかわる重要リスクについての管理方針・管理方法、並びに想定される事例毎の危機管理対応方法を「リスク管理規則」に定め、この規則に沿った運営を行っています。2010年度は、リスク項目の統一化、共通化を進めるとともにPDCAを回すリスク管理活動のデータベース化を進め、リスク情報の「見える化」、共有化と業務の能率化、情報蓄積を図りました。

### 海外リスク管理

#### 1. 中国コーポレートリスク管理の強化

三菱麗陽(上海)管理有限公司にリスク管理の企画・推進機能を持たせ、中国における事業活動のリスク管理、ガバナンス機能の整備・強化推進に取り組んでいます。

2010年度も引き続き、事業活動に直接影響する法律・制度リスクへの対応のための仕組みづくりに取り組みました。

頻繁な法律・制度変更にもれなく効率的に対応するための会社規則や業務処理手順の標準化、新たに発生する潜在的なリスクを把握するためのリスク棚卸制度の導入を進めています。また、リスク管理活動への意識付け、知識のレベルアップを目的として外部講師による現地スタッフへのコンプライアンス研修を実施しました。



惠州惠菱化成スタッフへのコンプライアンス研修  
(2010年11月実施)

こうした具体的なリスク管理への取り組みテーマの決定や、進捗管理を実施するために中国コーポレートリスク責任者会議を定期的で開催し、中国の事業環境の変化に即応したコーポレートリスク管理の強化を着実に推進しています。



第4回中国コーポレートリスク責任者会議  
(2010年10月大連麗陽にて開催)

#### 2. 中国安全・環境・品質(安環品)リスク管理の強化

2010年度は中国グループ各社参加による中国安環品会議、化学系グループ各社・加工系グループ各社毎の相互監査、各社安全・環境担当者の教育を実施しました。

また、中国グループ各社が共通ルールで管理できる各種基準・規定・協約類の管理ツールの整備、中国EHS法規対応のコンプライアンス監査を実施し、リスク管理の一層の強化を図りました。



中国安全・環境担当者交流会  
(2010年12月大連麗陽にて開催)

### 情報セキュリティ

三菱レイヨングループは、「情報セキュリティポリシー」を2004年度に制定し「情報セキュリティ委員会」を中心に情報セキュリティを強化しています。2010年度は、昨年度に引き続き各情報へのアクセス権の管理強化、新たな個人認証の対策を実施しました。さらにはMCHCグループへの統合に伴い、システムインフラにおいてセキュリティ環境の強化を図りました。引き続き、情報セキュリティ強化活動のPDCAサイクルを推進します。

## 6 多様な文化を尊重し、 社会及びステークホルダーとの共生に努めます。

### 企業倫理行動基準

6-1. それぞれの国や地域の文化や慣習を尊重し、社会との共生に努めます。

6-2. 顧客・消費者、取引先、従業員、株主・投資家、地域社会等の様々なステークホルダーとの関係を重視し、適正かつ友好的な関係の維持、発展に努めます。

### 次世代育成活動

#### 未来の科学者を育てる

三菱レイヨングループは、経済産業省の次世代教育プログラムである「早期工学人材育成事業」に参加しました。当社グループは、「次世代育成活動」をCSR活動の重点課題に据え、事業所や研究所の本業を通じた社会貢献を目指しています。経済産業省の次世代教育プログラムが目指す「未来の科学者を育てる」が、当社グループの活動と一致することから、横浜先端技術研究所が参加しました。

#### 早期工学人材育成事業 「DNAって何? ~バイオテクノロジーって?~」

(2010年12月実施)

実施校: 松戸市立牧野原中学校

授業内容: DNAを取り出す実験を通じてDNAの性質と働きを学習し、それを応用したDNAチップが、医療をはじめとしたさまざまな分野に活用されていることを学ぶ

講師: 横浜先端技術研究所 入社2~3年目の社員



実験を通じてDNAへの理解を深める

#### 将来のファッション業界を担う学生を支援

《ソアロン》デザインコンテストは、三菱レイヨン・テキスタイルが学校法人文化学園と協力し、2007年から実施されています。学生の新鮮な発想を競うこのコンテストを通じ、当社のオンリーワン素材であるトリアセート繊維《ソアロン》の価値観を広め、新たな可能性を広げています。

2011年1月、コンテストの最終選考会が開催されました。テーマは「大人可愛いドレスアップスタイル」。約520点の応募作品の中から審査を通過した15作品を対象に、ショー形式の最終選考会を行い、優秀作品3点を決定しました。



金賞

銀賞

銅賞

#### インターンシップ

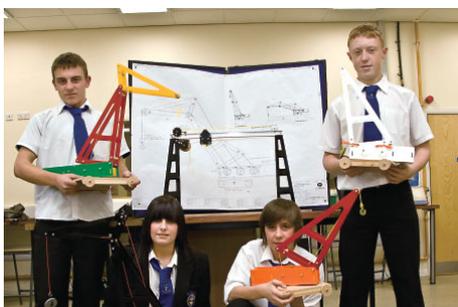
三菱レイヨンでは、主に大学、大学院、高等専門学校の学生を対象にインターンシップを行っています。毎年10名~30名(2010年度実績28名)を受け入れ、職場経験を通じて、自身のキャリアプランについて考える機会を提供しています。また外国人留学生にも門戸を開いています。

## 社会貢献活動

### ルーサイト社の社会貢献活動

#### 1. 将来のエンジニアを支援

ルーサイト・インターナショナルは、他社・関係協会とともに、イギリスの高校と小学校を対象としたローカル・プロジェクトに参加しました。プロジェクトでは、《Perspex》を使用してデザインされたクレーンをういたゲームを考案し、学生たちが将来のエンジニア像をイメージできるよう支援しました。



《Perspex》を使ったクレーンを作りエンジニアを体験

#### 2. ユナイテッド・ウェイの福祉プロジェクトに参加

アメリカ テネシー州のルーサイトのメンバーは、慈善福祉団体「ユナイテッド・ウェイ」のボランティア活動を支援しています。2010年は、年1回開催される「ジェネシス・ハウス\*・プロジェクト」に参加し、庭や貯蔵室の掃除などを行いました。

※ジェネシス・ハウス：メンフィスにあるホームレスのための避難所



ジェネシス・ハウス・プロジェクトに参加したメンバー

#### 3. キャッセルのメンバーが社員ボランティア賞を受賞

イギリス キャッセルのルーサイトのメンバーが、フェアリデルのクリーンアップ・プロジェクトに参加し「ノースイーストチーム・オブ・ザ・イヤー」を受賞。2010年6月に開催された表彰式に参加しました。



ノースイーストチーム・オブ・ザ・イヤーを受賞したメンバー

## 投資家とのつながり

### 情報開示に対する姿勢

三菱レイヨングループは、「適切な情報の開示と秘密情報・個人情報の管理」を原則の一つとして掲げています。2008年4月には当社グループの企業経営に関する重要な情報を適時・適切な方法で開示し企業活動の透明性を保つため「企業情報開示規則」を制定し、遵守しています。IR活動においても株式市場に対する適時・適切な情報開示、ウェブサイトを通じた最新ニュースの配信や会社情報の提供、各種業績資料の開示など、当社グループの正しい情報を発信しています。

### 2010年度の実績

2010年度からは、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループの一員として、アナリストや機関投資家の取材に対応し、これまでと同様のIR活動を行っています。6月には初めてMCHCが主催するメディア及び投資家向けの事業説明会に参加しました。

また3月には、中国のMMA事業の重要拠点である惠州恵菱化成有限公司で、機関投資家及びアナリスト向けの工場見学会を実施しました。

### 今後のIR活動

三菱レイヨングループは非上場企業となりましたが、三菱ケミカルホールディングスの基幹事業会社として事業を行っていくことには変わりはありません。IR活動の舞台をMCHCに移し、今後も引き続き当社グループの企業価値を投資家の皆さまにわかりやすく発信してまいります。

### 自らのベストクオリティ

## 三菱レイヨングループは最高の質を追求し、人々の豊かな未来に貢献します。

私たちは、従業員一人ひとりが自己変革を続け、自分の可能性を追求することによって、最高の質を提供できると考えています。当社グループは、従業員自らが自己を高め、その能力を最大限に発揮し、自身のベストクオリティを実現できる環境づくりを進めています。

7 仕事に対する情熱と使命感、そして自己を変革する勇気を持ち続けます。

P29

8 お互いの個性を尊重し、健康で働きやすい環境を構築します。

P30

9 世界中のパートナーと連携し、自らの能力を最大限に発揮します。

P32

## 7 仕事に対する情熱と

### 企業倫理行動基準

- 7-1. 社会に貢献する価値の創造に情熱を燃やし、高い理想と使命感を持って仕事に取り組みます。
- 7-2. グローバルな視野で環境変化を敏感に捉え、常に問題意識と改革を志す熱意を持ちます。
- 7-3. 自らの役割をよく認識し、必要な能力を高めるとともに、目標に果敢にチャレンジし、その達成に努めます。

### 人と組織力で成長する企業

三菱レイヨングループは、企業の成長力・競争力の源泉は人と組織の力であると考えています。人を活かす経営戦略のもと、人材確保と育成・活用を経営の重要課題と位置付け、積極的に取り組んでいます。

### 社員の自発的な能力開発を支援

日常業務の遂行を通じた能力開発(OJT)や各種研修制度、自己啓発支援等を組み合わせ、社員の自発的な能力開発を支援しています。新入社員研修や役職に応じた各研修では、人権の尊重、法令遵守、企業倫理の徹底、安全環境管理の推進を共通テーマとして取り上げています。また、海外への積極的な事業展開が進む中、各地域の文化や制度を理解してマネジメントする人材育成も強化しています。

### 組織の中での自らの役割を考える

主に若手総合職社員向けに、主体的な組織貢献について考える研修を実施しています。将来に向けて、自ら考え、行動する姿勢を身に付けることを狙いとしています。

### 職場の中核としての役割を認識し行動する

経営補佐職(管理職)への昇格を前に、自らの役割を認識し、具体的な行動に落とし込むことを狙いとした中核社員向け研修を行っています。チームを見る視点、動かすヒントを得て、成果を生み出すチームづくりと、その中心的存在としての自身のあり方を学びます。

# 使命感、そして自己を変革する勇気を持ち続けます。

## 職場のリーダーとして組織力向上を目指す

新たに経営補佐職に昇格した社員向けに新任管理職研修を実施し、コミュニケーションやリーダーシップのあり方をはじめとするマネジメント力の養成を行い、組織力の強化を目指します。



新任管理職研修でのグループワーク

## 50歳代経営補佐職のキャリア開発

定年以降も働くことが一般的な時代となりつつある中で、個人個人が将来に向けた自分のライフデザインを視野に入れ、会社人としての50歳代の働き方、能力開発を考えるキャリア開発研修を行っています。

## 人事評価制度“COM-PAS”でチャレンジを評価

三菱レイヨングループは、組織内のコミュニケーションを活発にして、各社員が組織目標を共有、目標に向け果敢にチャレンジし、その実現に成果を上げた人を適切に評価することを目的とした人事考課制度「COM-PAS (Communication, Plan, Action & Success)」を2006年に導入しました。この制度をさらに実効あるものにするため、毎年経営補佐職を中心に考課者研修を行い、評価の公平性、納得性、透明性を高めるよう努めています。目標による管理を軸としたこの人材マネジメントプロセスにより、社員個々人の能力を最大限に引き出すことで、人を活かす経営の実現を制度面からもサポートしています。

# 8 お互いの個性を尊重し、健康で働きやすい環境を構築します。

### 企業倫理行動基準

- 8-1. 個人の人権・人格・個性を尊重します。
- 8-2. 人種、国籍、性別、思想、信条、信仰、障がい等を理由とする不合理な差別をしません。
- 8-3. 従業員に能力開発の機会と活躍の場を提供し、多様な人材を活用し、育成します。
- 8-4. コミュニケーションとチームワークを大切にする職場風土・環境を創ります。
- 8-5. ワーク・ライフ・バランス(仕事と家庭の両立)を尊重し、メリハリのある働き方を推進します。
- 8-6. 職場における、相手方の意に反する性的な言動や、職務上の必要性を越えた人格や尊厳を侵害する言動を許しません。
- 8-7. あらゆる形態の強制労働、児童労働を排除します。
- 8-8. 組合活動を尊重し、より良い労使関係を築きます。
- 8-9. 社会への貢献を通じ従業員が誇りを持って働ける会社となります。

従業員一人ひとりの職業生活と  
家庭生活の充実を目指して

仕事と家庭の両立支援策

三菱レイヨンでは、法を上回る育児・介護関連制度を整え、従業員の仕事と家庭の両立を積極的に支援しています。

2008年及び2010年に次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」として認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。



また2010年6月には、厚生労働省「均等・両立推進企業表彰」(ファミリー・フレンドリー企業部門)において「東京労働局長優良賞」を受賞しました。



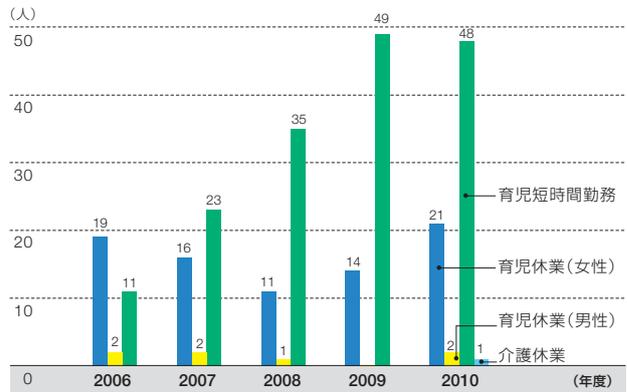
厚生労働省「均等・両立推進企業表彰」受賞式(北人事部長)

またダイバーシティ推進への第一歩として、女性のさらなる活躍を支援する取り組みを始めています。2010年は本支店地区の女性実務職社員を対象に公募型のキャリア開発研修を実施、また参加者の上司には、部下のキャリア形成を支援するセミナーをあわせて実施しました。従業員一人ひとりが生き活きと活躍し、働きがいを実感できる組織づくりを目指します。



女性社員向けキャリア開発研修

■ 育児・介護関連制度利用者数



※三菱レイヨン及び三菱レイヨン・エンジニアリングにて集計

ウェルカムバック制度

自己都合で三菱レイヨンを退職した社員が、再び当社で活躍できるよう、2008年1月より退職者復職登録制度(ウェルカムバック制度)を開始しました。出産や介護といった退職理由に限らず登録が可能な点が特長で、さまざまなライフステージの状況変化に適応したフレキシブルな退職者復職制度です。2011年4月現在、21名の登録者(女性17名、男性4名)がいます。

働きやすい職場のために

人権保護

三菱レイヨングループは、人権が尊重される公正な職場環境づくりに努めています。また各種社員研修において人権啓発の講座を設け、人権尊重の意識醸成に取り組んでいます。

セクシャルハラスメント、及びパワーハラスメントについても、就業規則の中でセクハラ、パワハラを許さないという姿勢を明確にし、社内報や社員研修において啓発を行っています。また本支店・各事業所に相談窓口を設けるほか、対策委員会を設置し、万が一発生した場合でも速やかに対応できる体制を整備しています。

障がい者雇用

三菱レイヨンの障がい者雇用率については、2011年3月現在1.95%となっています。企業の社会的責任の一環として、今後とも法定1.8%の達成、さらなる向上を目指して求人活動を行うとともに、職場の開発に全社的に努力してまいります。

## 再雇用制度

三菱レイヨンでは2001年度より再雇用制度を開始し、改正高年齢者雇用安定法(2006年改正)の主旨に基づき再雇用を行っています。全社員が定年以降も現役時代と同様に高い意欲を持って働き続けられるよう、働き方に応じた処遇制度を設けています。

## 私傷病欠勤・休職からの復職・復帰支援

心身の病気によって休業した社員がスムーズに職場復帰するためのプログラムや制度を整備しています。療養中は当社産業医を交えたフォローを行い、個別に職場復帰プログラムを作成、休業者が必要な準備期間を経て、段階的に完全復帰できるよう支援しています。

## 多様な人材を採用

### 新卒及び随時採用の基本方針

多様な人材の獲得は、海外への積極的な事業展開を推し進める上で必要不可欠です。当社グループのビジョンの実現に貢献できる可能性を秘めた人材を、国籍、性別にかかわらず継続的に採用しています。新卒者の定期採用のほか、即戦力の確保を目指した随時採用も適宜実施します。

## 行動憲章／企業倫理行動基準

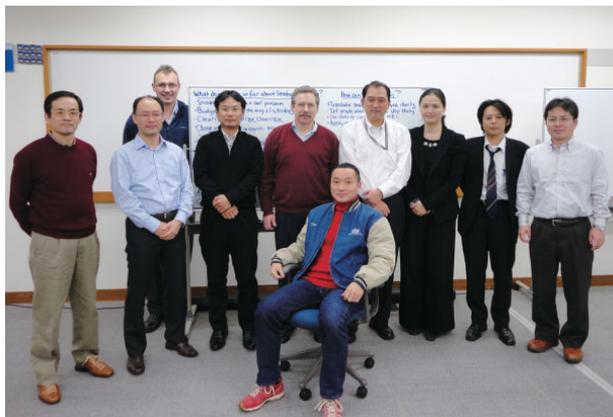
# 9 世界中のパートナーと連携し、自らの能力を最大限に発揮します。

## チームでグローバルCSR経営を推進

三菱レイヨングループは、ルーサイト社との統合による相乗効果を最大限に発揮できるよう、機能やミッションに応じてさまざまなプロジェクトチームを編成し、両社が一体となって各プロジェクトを推進しています。

2010年度は、2025年に向けた当社グループの成長戦略を立てる「グローバル・リーダーシップ・トレーニング」が開催されました。5カ月間にわたる5回のセッションで、参加者が当社グループの事業ポートフォリオ、事業構造の面から当社グループがどう成長できるかを討議、最終日の経営メンバーへのプレゼンテーションでその成果を示しました。当年度は、MRC から6名、ルーサイト社から2名が参加しました。

また、MCHCグループとはすでに活発な交流が進んでおり、事業シナジーやコスト・研究開発シナジーを追求し、協奏することでKAITEKIの実現を目指しています。



グローバル・リーダーシップ・トレーニング参加者

# 三菱レイヨングループの概要

## 会社概要

2011年9月現在

商号	三菱レイヨン株式会社 (MITSUBISHI RAYON Co., LTD.)
本社住所	東京都港区港南一丁目6番41号
創業	1933年8月31日
資本金	532億29百万円
連結子会社	90社(国内28、海外62)
持分法適用関連会社	15社(国内11、海外4)
事業所	大竹事業所／豊橋事業所／富山事業所／横浜事業所
研究所	中央技術研究所／横浜先端技術研究所／豊橋技術研究所／生産技術研究所
支店等	大阪支店／北陸出張所
従業員数	連結:8,203人(2011年3月31日現在)

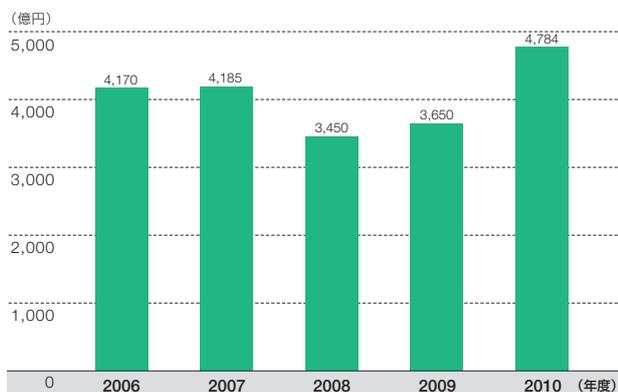
## 2010年度業績(連結)

当連結会計年度の海外経済は、中国を中心とする新興国に牽引される形で緩やかな回復が続きました。日本経済においては、アジア向け輸出の回復や経済対策効果などにより、景気は緩やかながらも回復傾向を辿りましたが、3月に発生した東日本大震災の影響により、先行きは急速に不透明感を強めました。

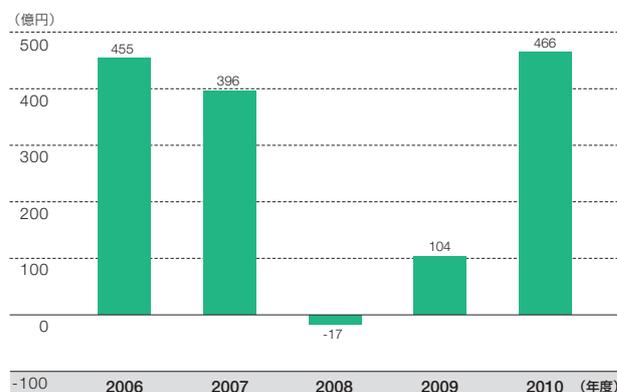
このような経営環境の中で、三菱レイヨングループは、第6次中期経営計画の見直しを踏まえ策定した当社グループのありたい姿「New Design MRC」に基づく具体的な施策を推進しました。また、三菱ケミカルホールディングスグループとの経営統合効果の早期発現に向け、事業の再編や統合などの具体的な取り組みを進めました。

当連結会計年度の連結営業成績は、中東情勢の緊迫化に伴う原燃料価格の高騰や、当連結会計年度後半からの為替の円高基調に加えて、一部の素材・用途で在庫調整の影響を受けたものの、全体としては各分野での需要回復がさらに進みました。また、ルーサイト社の業績がフルに寄与したこともあり、前連結会計年度比で増収、増益となりました。売上高は4,784億1百万円(前連結会計年度比31.0%増)、数理計算差異償却後の営業利益は410億37百万円(前連結会計年度比655.2%増)、経常利益は409億55百万円(前連結会計年度は61億35百万円の経常損失)、当期純利益は228億80百万円(前連結会計年度は50億13百万円の当期純損失)となりました。

### 連結売上高推移



### 連結営業利益推移



※退職給付会計の数理計算差異償却前の実質ベース

# 三菱ケミカルホールディングス グループ理念

## 三菱ケミカルホールディングスグループ 社会的責任の基本的な考え方

Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)を

企業活動の判断基準として

KAITEKIの実現に貢献していきます

私たちは、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow — 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」

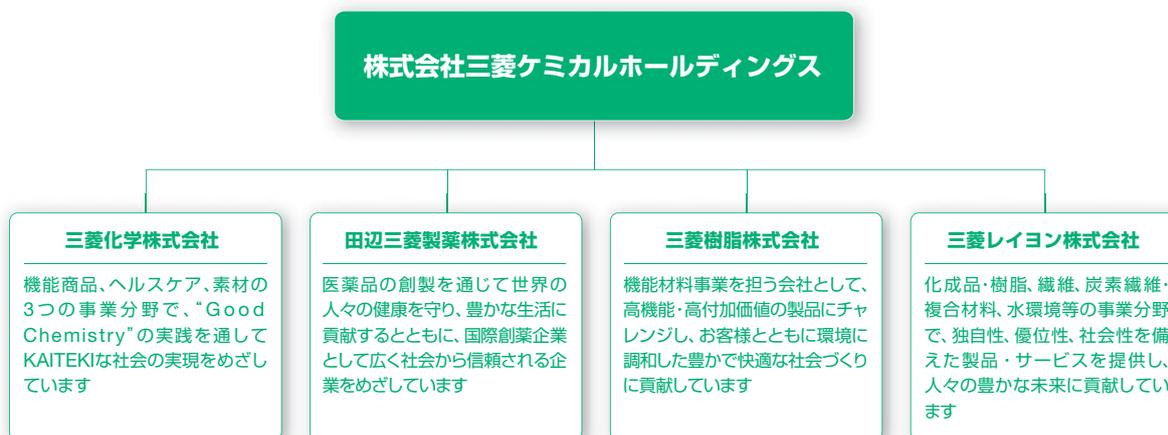
のもと、Sustainability(環境・資源)、Health(健康)、Comfort(快適)を判断基準としたすべての企業活動を通じて、

広く社会にKAITEKI価値を提供することがKAITEKIの実現であり、私たちの社会的責任であると考えています。

この思いを具現化していくために、KAITEKI価値の向上に欠かすことのできない、企業活動の基盤となる企業統治、

安全・環境、人権・労働などの活動を推進・強化し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

## 三菱ケミカルホールディングス グループ体系





〒108-8506 東京都港区港南一丁目6番41号(品川クリスタルスクエア)  
三菱レイヨン株式会社

経営企画室 KAITEKI 推進グループ  
広報室

<http://www.mrc.co.jp>



A-(2)-060002



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



20111110000 (IR) A